

# 日本語と中国語における授受表現の相対的内包と外延の俯瞰的考察

## A Rough Sketch on the Expressions of the Action of Giving and Receiving in Japanese and Chinese

藤田 益子

比起以汉语或英语为母语的日语学习的人来说，日语的“授受表现”可说是种类繁多且复杂；对于以日语为母语的人能极其自然地将“授受本动词”或“补助动词”的更换说法的表现，亦是对于以汉语（普通话）为母语的日语学习者来说，不是简单的语法项目。在“授受表现”上，日语与汉语两者皆有表现对事物的所有权的移动，但对日语的“授与动词”用法感到困难，是因为在汉语里存在着没有被表现出来的用法分别的要素。

另一方面，截至目前为止，在日语的“授受动词”及“补助动词”的用法，以语词范畴的分析或者以语法体系为基础的分析等等，被从多样的观点来进行研究；有许多文献，尽管已有一定程度上的理论性整理，又为何已将基础文法精通后的高水平的人更是对日语的“授受表现”的微妙表达方式所困扰着？原因在哪？反过来说，汉语的“授受表现”又是如何，和日语又有什么不同？

在本文，以复杂的日语的“授受表现”为根基，据此以能对应汉语的“授受表现”做对照后，将其相异点显现出来的同时，比起日语被认为较单纯的汉语的“授受表现”是用什么方法或过程来表现相对的内涵，同时俯瞰汉语的“授受表现”的外延；在章节安排上，在第1章里，确认在日语的“授受表现”所能看到的特征；在第2、3章里，分析日语的“授受动词”及“补助动词”与其所对应的汉语表现或语法特征；在第4章里，归纳了能在日语与汉语的“授受表现”里看得到的对应关系的规则性（但是也有规则对应关系所无法整理的个别的现象）；在第5章里，举出针对于有关日语的“授受补助动词”和汉语的表现具体例子并指出问题所在。

### 目 次

0. はじめに .....	2
1. 日本語の授受表現においてみられる特徴 .....	2
2. 日本語の授受動詞と対応する中国語の表現 .....	6
3. 日本語の授受補助動詞と対応する中国語の表現 .....	11
4. 日本語と中国語の授受表現にみられる対応関係 .....	24
5. 日本語と中国語の授受表現において相対的内包の見出しにくい対応関係 .....	29
6. まとめ .....	33

## 0. はじめに

中国語<sup>1</sup>や英語といった多くの日本語の学習者の母語たる言語に比べ、日本語の授受表現は種類が多く用法が複雑であると言われる。奥津（1983.p22）は対照研究の中で英語を例にとり、「英語ではgiveとreceiveの二語ですんでしまうところを、『クレル・クダサル・ヤル・アゲル・サシアゲル・モラウ・イタダク』の七語もあり、「オヤリニナル・オアゲニナル・オモライニナル」の三つを加えれば十語になるのだから、その複雑さは単純に計算して英語の五倍である。」と言いつづけている。日本語ではこれらの授受本動詞<sup>2</sup>に対して、更に、授受補助動詞として其々の授受本動詞の前に「て～」が付いた形も存在することから、一層事態は複雑なものとなる。

日本人を母語とするものにとっては、極めて自然に言い換えることのできるこれら授受本動詞や補助動詞の表現も、中国語を母語とする日本語学習者にとっては、安易な文法項目とは言えない。授受表現において、日本語と中国語いずれも事物の所有権の移動を表わすが、日本語の授与動詞の用法には、中国語では表現されない使い分けの要素が存在するからである。一方で、これまで日本語における授受動詞・補助動詞(ベネファクティブとも称される<sup>3</sup>)の用法は、語彙範疇による分析や文法体系に基づく分析など、様々な観点から研究が進められてきている。多くの先行研究があり、ある程度の文法上の理論的な整理がなされているにも関わらず、基礎文法をマスターした日本語学習の上級者になってもなお、日本語の授受表現の微妙な言い回しに苦められているのはなぜか。その原因はどこにあるのか。反対に、中国語の授受表現とはどのようなもので、日本語とは何が違うのか。

ここでは、複雑な日本語の授受表現を基に、これに対応し得る中国語の授受表現を対照することで、その相対的内包と外延をあぶりだすとともに、そこから中国語における授受表現とはどのような方法によって示されるものなのかを考えてみたい。

日本語では動作行為の送り手と受け手のどちらの立脚点<sup>4</sup>で現象を見るか、また身内かよそのかという話し手との距離感（視点ハイアラーキーとも称される）等によって、授受動詞・補助動詞の使い分けがなされるが、これらはもちろんコンテキストの中で考慮すべきものである。ただ、この場においてすべての例文に場面設定をすることは難しく、また本稿では、研究の第一段階として日本語の授受表現に対応する中国語表現にテーマを絞っていることから、単文レベルでの検証をおこなうものとする。

## 1. 日本語の授受表現においてみられる特徴

奥津（1983.p23-26）では、日本語の授受表現には次の4つのポイントがあると指摘している。それは「ペア構造と視点」、「与え手主語か、受け手主語」、「敬語か、非敬語か」、「身内へか、よそのへか」というものである。まずはこの点について、中国語との対応関係を検証する。

### 1.1. ペア構造と視点

奥津 (1983,p.23) では、「授受動詞をひろくとれば、『売ル・買ウ』『貸ス・借リル』『預ケル・預カル』『教エル・教ワル』『輸出スル・輸入スル』『話ス・聞ク』などかなりある。面白いことに、これらは二語がペアになって同一の事柄を表している。」とし、更に、「授受動詞がこのようにペアをなすのは諸言語にかなり普遍的であり、また、これらの二語は、客観的には同一の出来事であり、話し手の視点が異なるだけのことである。」と述べている。その反対に、ペア構造のない例として、中国語の“借”の例が挙げられている。<sup>5</sup>

確かに、中国語の“借”は、物の所有者の間の貸借による移動のみを表現しているため、「貸ス」とも「借リル」とも理解することが可能である。取り上げられている朱 (1979) の用例でも指摘があるように、動詞だけでは曖昧さを払しょくすることができず、それを回避する方法として、動詞に結果補語“给”（動詞の後につけてその働きの向かう所、すなわち誰に与えるかの「～に」を示す用法）<sup>6</sup>を付すことで「貸す」の意味を表す。また、「借りる」の場合は、介詞<sup>7</sup>“跟”を用い、それが持ついくつかの語義のうち、動作の発せられる方向や場所を表す「～から・～に」という意味の用法によって、起点を示すことで表現される。

- (1) 我借你一本书。      私があなたに一冊本を貸す。／借りる。<sup>8</sup>  
 (2) 我借给<sup>9</sup>你一本书。      私があなたに一冊本を貸す。  
 (3) 我跟你借一本书。      私があなたに／から本を一冊借りる。

元来、中国語の文章表現においては、“借”のような極端な例でなくとも、動詞のペア構造の有無に係らず、話し手の視点、いわゆる立脚点から見た動詞の動きの方向性は、補語や介詞に拠るところが大きい。例えば、方向補語の“来”（～てくる）・“去”（～ていく）、結果補語の“给”（～に），“到”（～まで）、介詞では、起点（～から）を示す“从”・“自”・“由”、対象（～に）を表す“给”・“对”、向き（～に）を示す“向”・“往”・“望”・“朝”、到達（～まで）を示す“到”などを用いることによって、動作行為の方向性を示している。

その一方で、動詞自体が主語と賓語の間に一定の方向性を示すものもある。“给”（与える）・“还”（返す）・“送”（贈る）・“寄”（送る）のような動詞は、直接賓語と間接賓語の二重賓語を取り、もともと授受の意味が含まれている。

このほか、奥津 (1983,pp.23-24) は、「もともと一つの出来事であるのを表すのに、話し手の視点が加わって二語のペアをなすというのは、授受動詞のほかにも「行ク・来ル」（日本語）、go : come（英語），“来・去”（中国語）、ka-ta:o-ta（朝鮮語）のように基本的な移動動詞については諸言語に共通のようである。」という。更に、このようなペア構造をなす用法として、能動文と受身文の対立<sup>10</sup>や自動詞と他動詞の対応<sup>11</sup>などもこれにあたるとして日本語の例を挙げている。

中国語についていえば、能動と受け身や、自動と他動の区別は、古い中国語においてはあいまいであったが、現代の中国語では、その使い分けは比較的はつきりしている。例えば、能動と受け身の区別は、被動のマーカ―“被”・“让”・“叫”などを用いて受け身の構文 (4b)

をつくることで表現される。

(4a) 狼群杀死了几头羊。 (オオカミの群れが数頭の羊を殺した。)

(4b) 几头羊被狼群杀死了。 (数頭の羊がオオカミの群れに殺された。)

### 1.2. 与え手主語か、受け手主語か

奥津 (1983,p.24) では、授受動詞の一方を与え動詞、他方を受け動詞と名付け、「クレル・クダサル・ヤル・アゲル・サシアゲル」を与え動詞、「モラウ・イタダク」を受け動詞と分類している。そして「話し手は、自分が視点を置くものを取りたてて文の主語とする。主語というのは、文の演出者である話し手が、主役として立てたものである。」としている。

この与え手主語と受け手主語の概念に意味上相当するものは、中国語の文にも見ることが出来る。例えば、以下の二例は、(5a) が日本語でいうところの与え手主語、(5b) が受け手主語の文に相当すると言える。

(5a) 山田给你一本书。 山田さんはあなたに本をやる／あげる／さしあげる。

(5b) 你从山田得到一本书。 あなたは山田さんに本をもらう／いただく。

### 1.3. 敬語か、非敬語か

奥津 (1983,p.24) では、先の五語の与え動詞と二語の受け動詞を更に敬語表現を含めて区分している。以下、その動詞について要旨を整理すると次のような対応となる。

与え動詞

クダサル : 与え手である主語に対する尊敬語

クレル : 与え手である主語に対する非尊敬語

サシアゲル : 受け手である間接目的語を尊敬する非主語尊敬語 ⇒ 謙讓語

アゲル : 受け手である間接目的語を尊敬しない非主語非尊敬 ⇒ 非謙讓語

ヤル : 受け手である間接目的語を尊敬しない非主語非尊敬 ⇒ 非謙讓語

(ただし、アゲルより待遇度が低い)

与え動詞

イタダク : 与え手である非主語を尊敬する非主語尊敬語 ⇒ 謙讓語

モラウ : 与え手である非主語を尊敬していない非主語非尊敬 ⇒ 非謙讓語

### 1.4. 身内へか、よそものへか

奥津 (1983,p.25) は「身内一話し手およびそれに近いと話し手が認定するもの一と、よそもの一身分でないもの一の区別が必要である。一人称名詞の表す話し手は常に身内であるが、それ以外は場合によって話し手が自分により近いと感ずる者が身内、そうでないものがよそものになる。」(中略)『クレル・クダサル・モラウ・イタダク』はよそものから身内へ、『ヤル・アゲル・サシアゲル』は、身内からよそものへの移動を表す、というように二分される。」とする。

ここにあげられている日本語の用例を基に、中国語の表現を対照してみると次のようにな



る。この例文の中国語訳からは、身内へか、よそものへかの区別は確認できない。

① よそものから身内への方向（物がよそものから身内へ移動している）

(6) 先生ガ 私ニ／弟ニ 本ヲ クダサッタ。 (老师给我／弟弟了一本书。)

(7) 友達ガ ボクニ 本ヲ クレタ。 (朋友给我了一本书。)

(8) 私／弟ガ 先生カラ 本ヲ イタダイタ。 (我／弟弟从老师那儿得到了一本书。)

(9) ボク／弟ハ 友達カラ 本ヲ モラッタ。 (我／弟弟从朋友那儿得到了一本书。)

② 身内からよそものへの方向（物が身内からよそものへと移動している）

(10) 私／弟ハ 先生ニ 本ヲ サシアゲタ。 (我／弟弟给老师了一本书。)

(11) ボク／弟ハ 友ダチニ 本ヲ アゲタ／ヤッタ。 (我／弟弟给朋友了一本书。)

更に奥津(1983,p.25)は、「どちらをよそものと決められない場合もある。その時は「くれる」よりは「ヤル」の方がよさそうだし、受け手主語なら「モラウ」を使う。」としている。身内かよそものかについては中国語では区別がみられないが、主語が「与え手」か「受け手」かでは表現が異なる。

(12) 太郎ハ 次郎ニ 本ヲ ヤッタ。 (太郎给次郎了一本书。)

(13) 次郎ハ 太郎ニ 本ヲ モラッタ。 (次郎从太郎那儿得到了一本书。)

### 1.5. 日本語の授受表現の特徴と対照すべき中国語の表現

ここまでの対照からも分かるように、中国語には、話し手自身を基軸とした身内とよそものとの関係や、敬語に反映されるような上下関係は存在しないとみられる。

奥津(1983,p.26)も「この三組の対立の中、敬語と身内の概念は、きわめて日本語的な社会言語学的概念で、しかもその運用は場面によってかなりちがうから、外国人には非常に難しいだろう。」と述べている。これらが他の言語の母語話者にとって日本語の授受表現を難しくしているのは確かである。

ただ、中国語においても視点については、主語と起点または着点を示すことで立脚点が表されており、動作自体の方向性が示される。更に、意味の上では「与え手主語か、受け手主語か」という理解が成り立つだけでなく、「施事主語か受事主語か」<sup>12</sup>という概念も存在する。

以上の点を踏まえて本稿では研究対象を次のように絞り込む。

[1.3.] に示した通り、「くださる・さしあげる・いただく」は敬語表現であり、「くれる・あげる・やる・もらう」が非敬語の基本的となる表現である。現代中国語では、動詞に係る日本語のような複雑な敬語表現はないため、単文レベルの日本語における敬語の違いを中国語の翻訳に対応させることは難しいと考える。そこで、各表現毎に用例を対照するが、ここでは、授受動詞と授受補助動詞に係る基本的な問題点を検証することを目的としていることから、敬語表現や「あげる・やる」に見られる待遇度の相違については言及せず、「くれる・やる(あげる)・もらう」という基本の授受動詞とその補助動詞のグループ(以下、類と称する)としてまとめ考察を進める。

また、例文として日中の対照訳のみられる代表的な日中・中日辞典、及び文型辞典等の用例などを活用し対応状況进行分析する。<sup>13</sup>

## 2. 日本語の授受動詞と対応する中国語の表現

### 2.1. 与え動詞

#### 2.1.1. やる (あげる)<sup>14</sup>

多くは“給”の動詞によって表される。以下では、文の構造によって分類する。

##### 2.1.1.1. “給” [動詞] を用いる

###### ①施事主語の場合

(ア)施事+“給” [施事の動作動詞] +間接賓語+直接賓語

(14) 妹に本をやる。 (我)<sup>15</sup> 给妹妹一本书。 (日)

(15) 子どもに小遣いをやる。 (我) 给孩子零用钱花。 (日)

(イ) “给” [施事の動作動詞] + (直接) 賓語<sup>16</sup>

(16) チップをやる。 给小费。 (日)

###### ②受事主語の場合

(ア)直接賓語+“给” [施事の動作動詞] +間接賓語

(17) これをおまえにやる。 这个给你。 (日)

##### 2.1.1.2. “给” [介詞] を用いる

現代中国語では、“给”には動詞と介詞の両方の用法が存在するが、もとは動詞の文法化によって前置詞的な介詞の用法が生じたものである。このような“给”の文法化に伴う受け手を導く介詞の用法について、木村 (2012, pp.224 - 225) では、「授与目標マーカ―」と「受益者マーカ―」の二つのマーカ―としての役割を挙げている。<sup>17</sup>後者のように、間接賓語に対して受益的動作 (対象に恩恵を伴う動作) の授与がある場合、介詞の“给”を用いて、先に受益者対象を示し、その後で受益的動作の内容を表現する。日本語ではこのような場合、受益的動作ではなくモノの授与と捉え授受動詞「やる (あげる)」の一語で表現が可能であるが、中国語では、「何をどうしてやるか」を具体的に述べる必要があるため、日本語の補助動詞「～てやる」と同じような言い方となる。

① (施事) + “给” [介詞] +間接賓語+施事の動作動詞+直接賓語

(18) 花に水をやる。 给花浇水。 (日)

② (施事) + “给” [介詞] + (間接) 賓語 + 施事の動作動詞

(19) 小鳥にえさをやる。 给小鸟喂食<sup>18</sup>。 (日)

③ (施事) + “给” [介詞] + 間接賓語 + 施事の動作動詞 + 直接賓語 + 受事の動作動詞

(20) ウシに草をやる。 给牛喂草吃。 (日)

2.1.1.3. 「やる (あげる)」に対応する中国語

日本語の「やる (あげる)」に対しては、中国語では基本的に“给”が対応する。“给”には、動詞と介詞の二つの品詞があり、これらのいずれもが「やる (あげる)」に対応し得るものである。動詞“给”を使う文構造の場合、多くの用例では「施事 + “给” [動詞] + 間接賓語 + 直接賓語」の構文のように、動詞“给”の後ろには間接賓語が置かれるが、間接賓語は敢えて置かず、(16) “给小费。” (チップをやる) のように、“给”の後に直接賓語が来る例もある。更に、(17) のように「受事主語 (として直接賓語) + “给” [動詞] + (間接) 賓語」の構文をつくるものもある。また、介詞“给”を使う文構造の場合、中国語では日本語の「動詞 + てやる」という補助動詞の用法に相当する表現となる。例えば (18)、(19) の例文を中国語の直訳で表すと「花に水をかけてやる、鳥に餌を食べさせてやる」となる。これは、中国語が動作行為の動きというものを重視する傾向があることによるものと考えられる。

2.1.2. くれる

2.1.2.1. “给” [動詞] を用いる

(21) 兄が本をくれる。 哥哥给我书。 (日)

(22) 父のくれた時計が私の宝物だ。 父亲给的表是我的宝贝。 (日)

2.1.2.2. “来” [動詞] を用いる

動詞“给”が用いられる例が多いものの、それ以外の動詞も日本語の「くれる」に相当する。“电话” (電話) や“信” (手紙) などを「よこす」という意味での“来”の用法である。電話や手紙などの必ず送り手と受け手が存在し、よそものから身内に行われる動作行為に対して動詞“来” (来る) を用いる。主語が与え手でありよそものであることから、その授与を「くれる」と表現する。

(23) 彼女は毎晩電話をくれる。 她每天晚上都来电话。 (日)

(24) 息子はめったに手紙をくれない。 儿子很少来信。 (日)

2.1.2.3. 使役表現を作る慣用的用法を用いる

“为”の介詞用法で「“为” + 名詞 + “所” + 動詞」の形で用い、「～れる・られる・～される」という使役表現で用いられる書面語的な用法である。直訳は、「～に動かされない」であり、「～に目もくれない」と翻訳されている。

(25) 金には目もくれない。 不为金钱所动。 / 连看也不看钱一眼。 (日)

## 2.2. 受け動詞

## 2.2.1. もらう

## 2.2.1.1. 「獲得と受領」の意味を持つ動詞を用いる

「獲得と受領」を表す動詞は、以下のように分類される。

## ①受け取る

この意味の「もらう」という日本語に対しては、相当する特定の中国語の語は見られない。例えば、“要”（もらう・求める・注文する<sup>19</sup>）・“領”（受け取る）・“获得”（獲得する・得る）などの受領の意味を持つ動詞の単独の用法のほか、受領の意味を持つ動詞“領”（受け取る）・“接”（物を手で受ける・手紙、電話などを受け取る）・“得”（得る・手に入れる・獲得する）・“收”（得る・獲得する・受け取る・受け入れる）に結果補語“到”（動作の結果や目的が達成されることを表す）が加わった動補構造の動詞句などが「もらう」に相当する。

- |                                   |                             |     |
|-----------------------------------|-----------------------------|-----|
| (26) お小遣いをもらう。                    | <u>要</u> 零花钱。               | (日) |
| (27) 給料をもらう。                      | <u>领</u> 工资。                | (日) |
| (28) ボーナスをもらう。                    | <u>领</u> 奖金。                | (日) |
| (29) 配当金をもらう。                     | <u>领</u> 红利。                | (日) |
| (30) ついにノーベル賞をもらった。               | 终于 <u>获得</u> 了诺贝尔奖。         | (日) |
| (31) 入選して賞金と賞状をもらった。              | 入选后 <u>领到</u> 了奖金和奖状。       | (日) |
| (32) 当選して賞品をもらった。                 | 当选后 <u>领到</u> 了奖品。          | (日) |
| (33) 大阪支店に転勤の辞令をもらった。             | <u>接到</u> 调往大阪支店的调令。        | (日) |
| (34) 特別休暇をもらったので旅行に行く。            | 因为 <u>得到</u> 特别休假而去旅行。      | (日) |
| (35) ねえねえ、ラブレターもらったんだ。            | 喂喂，我 <u>收到</u> 了一封情书。       | (日) |
| (36) 子どもたちはクリスマスプレゼントをもらって大はしゃぎだ。 | 孩子们 <u>收到</u> 圣诞节礼物高兴得又蹦又跳。 | (日) |

## ②得る

“获得”（獲得する・得る）・“取得”（獲得する・手に入れる・取得する）・“领取”（受け取る・もらう）などの単独の動詞を用いる例が多くみられる。

- |                         |                      |     |
|-------------------------|----------------------|-----|
| (37) 特別許可をもらう。          | <u>获得</u> 特别批准。      | (日) |
| (38) 申請してビザをもらう。        | 申请后 <u>取得</u> 签证。    | (日) |
| (39) 申込書をもらって必要事項を記入する。 | <u>领取</u> 申请表填写有关事项。 | (日) |

## ③迎え入れる

“領”（受け取る）・“招”（婿を取る・もらう）などの単独の動詞か、“要”（もらう・求める・注文する）・“分”（分配する・割り当てる・分け与える）に、介詞“给”（物の伝達や受け取る者を導く<sup>20</sup>）の補語的用法が加わった動詞句が「もらう」に相当する。

- |              |              |     |
|--------------|--------------|-----|
| (40) 養子をもらう。 | <u>领</u> 养子。 | (日) |
|--------------|--------------|-----|



- (41) 婿養子をもらおう。 招女婿。 (日)
- (42) それほどの人材ならぜひうちでもらいます。  
如果是那么优秀的人才一定要给我们。 (日)
- (43) 田中君はぜひうちの部署でもらいたい。 一定要把田中君分给我们部门。 (日)

#### ④注文する

“要”は、「求める」→「注文する」→「もらう」の意味でも用いられる。

- (44) ビールをもう2本もらいましょう。 再要两瓶啤酒吧。 (日)
- (45) エピチリソースとマーボドウフを2人前ずつもらおうよ。  
干烧虾仁和麻婆豆腐各要两份。 (日)
- (46) そんなにもらっても食べきれないわよ。 要那么多吃不了呀。 (日)

#### ⑤勝負を勝ち取る

“贏”（勝つ）は、「勝負を勝ち取る、勝ちを得る」ところから、この場合「もらう」という意味で使われる。中国語では、更に「固定・確定などの意味を表す」結果補語“定”を付すことで、(47)のように「勝利が決定した」という意味を表している。

- (47) よし、この勝負はもらった。 好, 这个比赛赢定了。 (日)

#### 2.2.1.2. “来”[動詞] を用いる

“来”[動詞] を用いるのは「くれる」の際にも見られた用法である。ただし、“来”[動詞] と「くれる」の対応よりも、「もらう」との対応関係の方が複雑である。中国語では“电话”（電話）や“信”（手紙）など、必ず送り手と受け手が存在する動作行為に対して動詞“来”を用いるが、例えば、次の中国語では、主語が“你”であり与え手であるにも関わらず、与え動詞の「くれた」ではなく、受け動詞の「もらう」を用いて翻訳されている。

- (48) もしもし、鈴木君かい、さっき電話をもらったそうだが。  
喂, 是铃木君吗? 听说你刚才来过电话是吗? (日)

これは、中国語の“来”のもつ意味に関係があるとみられる。次も同じ『日中辞典』（第2版）の“来”に見られる例文と訳文である。

- (49) 老李走后来过两封信。 (日) 李君が行ってから手紙を2通よこした。

この例文に見られる“来”は、「来る」ではなく「よこす・来させる」という意味である。つまり、この“来”（よこす・来させる）には使役的意味があり、中国語では「あなたが2通手紙を来させた。」と言っているのである。もし(48)の例文を日本語に直訳するなら「聞くところによると、たった今、あなたが電話を来させた、そうですね?」となり、あなたが対象物（この場合は電話）に来るといふ動作行為をさせた、私（話し手）はその恩恵的行為を受領した、つまり「あなたに来させられた電話を私が受けた⇒もらった」という転換のプロセスがある。そのためこれに対する日本語は受け動詞の「もらう」を用いることとなる。

### 2.2.1.3. “请”[動詞] (+ “给”)

“请”と一諸に、授与を表す“给”[動詞]を用いて「もらう」(受領)表す表現がある。

(50) 少し時間をもらって相談しよう。 请给点时间商量一下吧。 (日)

これは、“请”を用いた構造であることが特異な点である。“请”は「相手に頼んだり勧めたりする時に用いる」もので、後ろにくる動詞は相手の動作行為であり、「あなたが～することを請う」→(あなたは)～「してください」に該当する一種の敬語表現である。

例えば、“请坐”(お座りください。)、 “请用茶”(お茶をお飲みください。)、 “您请这边儿坐”(こちらにお座りください。)のように用いる。

つまり、(52)の日本語においては「あなたは少しの時間を与えてください」→「私たちはあなたに少し時間をもらいたい」という主語の置き換え(あなた→私)が行われ、同時に与え動詞から受け動詞への転換が行われている。

## 2.3. 日本語の授受動詞と中国語の授受表現を表す動詞

### 2.3.1. 日本語の与え動詞と中国語の“给”[動詞]

与え動詞のうち「やる(あげる)」に対しては、基本的に“给”[動詞]が対応する。「くれる」に対しても多くは“给”が対応する。中国語の“给”[動詞]は、あくまでも「授与」の意味しかないので、AがBへ授与するという動作行為の方向性は、主語Aと賓語Bという文の構造上の役割によって決定づけられるにとどまる。

(51) 我给你一本书。 (私はあなたに本をやる/あげる。)

(52) 你给我一本书。 (あなたは私に本をくれる。)

そのため、(51)、(52)のように、日本語の与え動詞「やる(あげる)」と「くれる」で使用の区別の基準となる、話し手にとっての受け手と与え手との距離感、つまり身内からよそものへ、よそものから身内へという区別に対する中国語の使用語彙の相違は見られない。

### 2.3.2. 日本語の受け動詞と中国語の「獲得・受領」を意味する動詞

一方、受け動詞の「もらう」には対応する一定の動詞がなく、「獲得と受領」の意味を持つ動詞が多数対応しうる。中国語においては、与え動詞の方が受け動詞より優位にあるという見解は、簡略にはあるが既に奥津(1983,p.29)にも示唆されている。獲得の場合でも受領の場合でも、「もらう」に対応する中国語の対応表現は「一对多」である。ただ、一对多の対応ではあるものの、受け動詞には、「獲得と受領」という動詞の意味上のくくりと、ある種の補語が共用されることが多いという規則性を見ることが出来る。そのうち、結果補語については、到達を示す“～到”を伴うものが多く、取得を示す“～取”、給与を示す“～给”なども見られ、動作行為の達成や帰着点を示すものを用いる傾向がある。例えば“领到”・“获得”・“接到”・“得到”・“收到”・“领取”・“要给”・“分给”などの例がこれに当たる。

### 3. 日本語の授受を表す補助動詞と対応する中国語の表現

#### 3.1. 「与え」の補助動詞「動詞+てやる(てあげる)」類

「与え」の補助動詞として、動詞+「てやる」・「てあげる」・「てさしあげる」と中国語の表現を対照する。

##### 3.1.1. 「動詞+てやる」

###### 3.1.1.1. “給”[介詞]を用いる

中国語では、(形の有無にかかわらず)事物が動作行為の対象に向かって移動するとき介詞や動詞の“給”が用いられる。介詞の“给”は動作の対象を示し、その動作の及ぶ先を明らかにするため、日本語の既に述べた授受動詞、並びに補助動詞に対応する表現に多用される。

以下では、対応する中国語の構文によって分類する。

###### ①(施事)<sup>21</sup>+“给”[介詞]+間接賓語+動詞+直接賓語

- (53) 子供にお話をしてやる。 给小孩儿讲故事。 (中)
- (54) 子供に新しい自転車を買ってやったら、翌日盗まれてしまった。  
给孩子买了辆新自行车,第二天就被偷走了。 (文)
- (55) 東京の弟に、今年もふるさとの名物を送ってやった。  
今年又给住在东京的弟弟寄了点家乡的特产。 (文)

###### ②施事+“给”[介詞]+(間接)賓語+動詞

- (56) 荷物、重かったら持ってやるよ。 行李重的话,我给你拿吧。 (文)

##### 3.1.1.2. 使役表現を作る動詞(“给”・“让”・“叫”)を用いる

###### ①授与行為に支ええられた介助を伴う使役的用法<sup>22</sup>

###### (ア) “给”[動詞]+間接賓語+直接賓語の動作動詞と補語+直接賓語

- (57) 上着を着せてやる。 给他穿上上衣。 (日)

そもそも“给”[動詞]には、「～せる・～することを許す」という意味があり、中国語の使役動詞の“叫・让”の用法に近い。例えばほかに次のような使い方がある。

- (58) 帮他搬了一天家, 给我累坏了。一日中彼の引っ越しを手伝って、とても疲れた。(中)
- (59) 你看着这条狗, 别给跑了。 このイヌの番をしてくれ、逃がさないように。(中)

ただし、対比して分かるように同じ被使役者を導く“给”であっても、(57)の用例では、間接賓語である動作対象に対して、その動作行為を行うことが有益であると話者が認める場合には、日本語では「(着せて)てやる」という表現を用いるが、(58)、(59)の用例のように利益が生じない場合は、“给”の使役表現であっても日本語の授受表現には対応しない。

## ②決意を表す表現

## (ア) “给” + (間接) 賓語 + “看”

(60) 一等賞をとってやる。 (要) 拿给一等奖给你看。 (日)

(61) 死んでやるから。 我死给你看。 (日)

## (イ) “让”・“叫” [動詞] + 間接賓語 + 間接賓語の動作動詞の重ね型 (+ 直接賓語)

(62) 目にももの見せてやる。 让你见识见识。 / 叫你尝尝我的厉害。 (日)

使役(させる)の意味を持つ動詞“给(～看)”・“让”・“叫”を用い、「～て見せてやる」、「～てやる」に相当する表現をなす。これらの用法は、文の構造においては兼語式となる。兼語式の構造とは、[(主語) + 述語 [動詞1 + <賓語1 + 動詞2 (+ 賓語2) >] というもので、この場合、動詞1が使役動詞、賓語1が被使役者、動詞2は被使役者の動作、賓語2は動詞2の動作行為の対象である。つまり [<賓語1が動詞2を(賓語2に対して) すること>を動詞1する] という意味を表し、動詞1に該当する動詞は、使役義を持つものなど<sup>23</sup>に限られる。

ここで「～てやる」と中国語の使役動詞の用法を対比してみる。まず“给”について、(57)の例は兼語式で「私が<彼が上着を着る>ようにさせる。」という形になっている。(60)、(61)は連動式と兼語式が混用された複雑な形であるが、「私が一等賞をとって、<あなたがみる>ようにさせる。」「私が死んで、<あなたに見る>ようにさせる。」(62)の“让”・“叫”については、少々慣用的な表現で、直訳すると「<あなたが見聞を広める>ようにさせる。」 / 「<あなたが私の凄さを味わう>ようにさせる。」となる。奥津(1981)は日本語の「～てもらう」文と中国語の兼語文の関連性を指摘しているが、「～てやる」文も「～てもらう」文と同様に、一種のはめ込みの構図が見て取れる。

なお、次の(63)のように、中国語で使役動詞を使用せず決意を表す用法も見られる。この場合の中国語は、「私が本当に死ぬから、お前は見てみろ。」と、はめ込み式ではなく主語を分けた表現となっている。

(63) そんなに言うんなら、死んでやる。 你要那么说, 我真死你看看。 (日)

## 3. 1. 1. 3. 排除・離脱・消失・変化を表す結果補語を併用する

話し手にとって決意をもって行う動作行為の場合、中国語では動詞の後に、補語として“掉”(他動詞の後につけて排除することを表す・自動詞の後につけて離脱することを表す)、“光”(きれいさっぱりと何も無い・何も残っていない)のような排除・離脱・消失・変化を表す結果補語を併用する。これにより、強い決断や思い切りを表明することが出来る。<sup>24</sup>また、日本語において利益、恩恵の授与とは言いきれない内容に、「与え」の補助動詞「～てやる(てあげる)」を用いることで、(64)の如くあてつけのようなニュアンスを表すことも可能である。

- (64) こんな給料の安い会社辞めてやる。  
工资这么低的公司, 随时都想辞掉。 (文)
- (65) テーブルの上の料理を全部食べ尽くしてやる!  
桌子上的菜我都要把它吃光!

#### 3.1.1.4. “把”構文<sup>25</sup>を用いる

①動作行為の対象(人)の存在が不可欠で、その動作行為自体が対象に利益や恩恵をもたらす動詞を用いる

“把”[介詞]+賓語+動詞+補語という処置義<sup>26</sup>を表す構文に用いられる。

- (66) 犬を広い公園で放してやったら、うれしそうに走り回っていた。  
在公园把狗放开, 狗快活地绕圈跑。 (文)

②決意を表す表現

使役動詞や補語を用いる以外にも、決意などの強い意思表示を示す「～てやる・てやった」に相当する中国語の表現方法がある。“把”[介詞]によって賓語を強調して明示し動作行為の対象を絞り込んだ後、文末に助詞“了”を用いたり、助動詞“要”(～したい)を用いて意思を示したりすることで、対象に対する動作行為の執行の完了・事態の発生もしくは意思を示し、動作行為の決意としての「～てやった・てやる」のニュアンスを表現する。

例えば(67)の三つの例文のグループにおいて、(67a)と「～てやる」類に相当する(67b)・(67c)の相違は、賓語を取り立てる効果のある介詞“把～”を用いたフレーズの有無である。「～てやる」類に相当するこの二例は「介詞+賓語構造」により対象を特段に取り上げた形でその明示が行われ、文末に“了”(完了や発生)が付くことで、それに対する動作行為の執行(もしくはその意思)が強調される。本来“吃”は意味の上では授受性を含む動詞ではないため、そのままでは二重賓語を取る動詞のように動作行為の授与の相手は想定されない。たとえば、決意を表す[3.1.1.2.②]のような「～てやる・～てやった」の用法は、中国語の表現では、“给”+間接賓語(人)+“看”=「人に～してみせてやる」という意味で表される。つまりは、皮肉を込めた表現であるとはいえ、極端な動作行為を相手に見せることで授与するという一種の授受関係が存在する。同様に(67b)・(67c)の中国語は、介詞で動作行為の及ぶ対象物を強調して取り上げることで、主語の施事(動作主)が私で与え手側に立脚点を置くことを明らかにし、動作行為が話し手の想定する対象に向かって行われた(または行われる)ことをはっきり示す。こうして、話し手(にとっての身内)からよそものに授与行為が向けられる日本語の「～てやる・てやった」に対応させる形をとっている。もし、(67a)のように主語と賓語という関係でしか対象を示さないと、構文上の文の役割によってしか授受関係が分からず、話し手がどこに向けて行った動作行為なのかという動作行為の方向性(矢印)を明文化するに至らないため、授与を示す「…に対して～てやる・てやった」というこの強い決意のニュアンスを表現しきることが出来ない。

また(67b)と(67c)の相違は、(67c)が意思を表す“要”を用いるのに対し、(67b)は



意思を表す“要”を用いず、“把”構文の中で動詞の前に助詞の“给”を用いてその動作が完全に執行されたという語調を強めることで「～てやった」という日本語の語気を表現する。

- (67a) 私はテーブルの上の料理を全部食べた。 我都吃了桌子上的菜。  
 (67b) 私はテーブルの上の料理を食べてやった！ 我都把桌子上的菜给吃了！  
 (67c) 私はテーブルの上の料理を全部食べてやる！ 我都要把桌子上的菜吃了！

### 3.1.1.5. 動作行為に積極的に向かうことを示す語を用いる

介詞を用いることで、必ずしも対象をクローズアップすることが出来るとは限らない場合がある。“说”のように直に対象者（間接賓語相当）を賓語に取ることが出来ない動詞述語文では、通常、介詞によって動作行為の対象者が示される。そのため、(68a)のように介詞があっても日本語では「～てやる・てやった」という授受表現が対応しない。このような場合、(68c)の「～てやる」の意思性については、(67c)と同様に意思を表す“要”（～したい）を用いて表現される。しかし、日本語の「～てやった」が持つ「意思の強さと事の成就及び達成感」を表すには、(67b)のように“去”という新たな動詞を述語動詞の前に置き、文末に“了”を用いてその動作行為が完了し状況変化が起こったとすることで授受表現への対応がなされる。この“去”には「動詞の前に置き、自ら何かをしようとする語気を示す。話し手のいる場所を離れてある事柄を行おうとするときに“去”を使い、話し手のいる場所である事柄に参加するときには“来”を使うが、この場合具体的あるいは意識的であるかを問わない。」<sup>27</sup>という意味がある。つまり中国語では、「私は（自ら積極的に出張って行って）お母さんに言った！」という表現を用いているのである。このように、主語の施事（動作主）が私で、その与え手から自主的に発せられる動作であることを強調することで、与え手側に立脚点を置くことがはっきり示され、動作行為の話し手がどこに向けて行った動作行為なのかという方向性（矢印）が明文化される。これにより、話し手（にとっての身内）からよそものに授与行為が向けられる日本語の「～てやる（てあげる）」に対応することとなる。

- (68a) 私はお母さんに言った。 我跟妈妈说了。  
 (68b) 私はお母さんに言ってやった！ 我去跟妈妈说了！  
 (68c) 私はお母さんに言ってやる！ 我要跟妈妈说！

### 3.1.1.6. 動作行為の対象（人）の存在が不可欠で、その行為自体が対象に利益や恩恵をもたらさる動詞を用いる

“教”（教える）・“说”（説教する・小言を言う・しかる）・“揍”（殴る）・“理睬”（かまう・相手にする）のような、必ず動作行為の対象が必要な意味の動詞が使われる。話し手にとっては合理性のある敢えて行う動作行為であり、対象者にとってはそれが不利益を被ることとなる場合にも用いられる。

#### ①動詞＋間接賓語＋直接賓語

- (69) 子どもに勉強を教えてやる。 教孩子学习。 (日)

②動詞＋（間接賓語）＋動量詞

(70) あまりに身勝手なのでしかりつけてやった。 因太随便了, 说了 (他) 一顿。 (日)

(71) 殴ってやろうか。 真想揍你一顿。 (日)

③動詞＋賓語

(72) 腹立たしいやつを無視してやった。 没有理睬那个可恨的家伙。 (日)

3. 1. 2. 「動詞＋てあげる」

3. 1. 2. 1. “給” [介詞] を用いる

構文は基本的に、(施事)＋“給”[介詞]＋間接賓語＋動詞＋直接賓語である。杉村(2002,p.73)に“S+給人+VO”構文は、行為の結果生じる何らかの影響の受け手を表す場合に広く使うことができる。この“給人”は日本語では「人に」と訳されることが多く、恩恵の意味を強調する場合に「人のために」と訳される。このことから、日本語の「人に」は物や情報の伝達以外にも、広く行為の受け手を表す場合に使えることが分かる。」とあるように、(73)・(74)の“給”[介詞]は、日本語「～のために」と言い換えることが出来るものである。<sup>28</sup>

(73) この暖かいひざかけ、お母さんに一枚買ってあげたら喜ばれますよ。 (文)

这种盖膝毯可暖和了,要是给你母亲买一块肯定很高兴。

(74) せっかくみんなの写真を撮ってあげようと思ったのに、カメラを忘れてきてしまった。(文)

本来想得好好的,要给大家照张相,但却忘带照相机来了。

(75) 何を書いているの? 出来たら読ませてあげる。 (文)

你写什么? 写好了再给你看。

3. 1. 2. 2. 動作行為の対象(人)の存在が不可欠で、その行為自体が対象に利益や恩恵をもたらしうる動詞を用いる

“叫”(呼ぶ、呼びつける、呼び寄せる・配達を頼んで届けさせる・料理を注文する・タクシーなど車を呼ぶ)、“帶”(率いる・引き連れる)のような、必ず動作行為の対象が必要で、対象に恩恵をもたらす意味の動詞が使われる。

① “叫”(呼ぶ)

(76) ごはん、もうできた? まだ。できたら呼んであげるからもう少しまってて。

饭做好了么? 还没呢。 做好了会叫你的, 再稍等一会儿。 (文)

② “帶”(率いる・連れる)

(77) おばあさんが横断歩道で困っていたので、手を引いてあげた。

我看到一位老奶奶过马路很困难,就上去牵着她的手,带她过了马路。 (文)

3. 1. 2. 3. 動作行為の対象のために特別に動作行為を行う意味を示す修飾語を用いる

“为”[介詞](～のために)を用いることで、動作行為の対象である受益者を導く。これ

により、「～てあげる」という日本語の表現に相当することになる。

(78) 妹は母の誕生日に家じゅうの掃除をしてケーキを焼いてあげたらしい。

在母亲生日的那一天, 妹妹把全家都打扫干净, 好像还为母亲烤了一块蛋糕呢。 (文)

### 3.1.3. 「動詞+てさしあげる」

#### 3.1.3.1. 動作行為の対象（人）の存在が不可欠で、その行為自体が対象に利益や恩恵をもたらさしめる動詞を用いる

動詞句において、“送” [動詞] + (“到”・“回”) 補語という形式が多く、(79) では“送” (送る・見送る・送っていっしょに行く) という動詞に、方向補語の“到” (その場所への到達を表す) が付いて、「送り届けるという」意味を表す。(80) は動詞は同じく“送”であり、方向補語に“回” (動作に伴って動作の対象がある場所に戻ることを表す) を用いている。動詞“送”の意味内容から利益の授与が表され、更に“把”構文を用いることで処置義が附加される。敬語表現は中国語には反映されない。

(79) あなた、お客様を駅までお見送りしてさしあげたら？

喂, 你去把客人送到车站, 怎么样? (文)

(80) 昨日は社長を車で家まで送ってさしあげた。昨天我用车把总经理送回了家。 (文)

#### 3.1.3.2. “帮” [動詞] を用いる

構文は、“帮” [動詞] + 賓語 + 動詞の形である。

“帮” [動詞] のもつ「助ける・手伝う・代わりに～してやる」という意味から、後の動詞の動作行為自体が手助けや代行の内容として示されており、対象者に利益・恩恵として後の動詞の動作行為が与えられることとなる。形は目に見えない事物でも、動作行為の結果、恩恵がもたらされれば、その授与により「～てさしあげる」という日本語の表現に相当することになる。

(81) 田中さんをご存じないのなら、私の方から連絡してさしあげましょうか。

如果您不认识田中的话, 我帮您联系吧。 (文)

### 3.2. 「与え」の補助動詞「動詞+てくれる」類

#### 3.2.1. 「動詞+てくれる」

##### 3.2.1.1. “给” [介詞] を用いる

益岡 (2012,p.6) は「話し手にとって利益的・恩恵的なものであるということを表したいとき、テクレル受益文が大きな力を発揮する。」という。一方これに対応する“给”は、既に [3.1.2.1.] でも触れたように、杉村 (2002,p.73) の指摘した「～ために」と言い換えられる「“给” + 人 (誰)」構文のもので、動作行為が誰に対して行われるのか動作行為の方向性を示すだけでなく、「誰のために行われるのか」という利益・恩恵の授与を明示する。このことから話し手 (身内を含む) にとっての恩恵的な受益を表す「～てくれる」という日本語の表現に対応することになる。

① “給” [介詞] + 間接賓語 + 動詞 + 直接賓語

(82) 新聞を持ってきてくれ。 给我拿报纸来。 (日)

(83) 母がイタリアを陵こうしたときに案内してくれたガイドさんは、日本語がとても上手だったらしい。

母亲在意大利旅行时, 据说给她做导游的那个人的日语特别好。 (文)

日本語の「～てくれた」と同様に、中国語の“給”(～ために)も対象に対する有益な事物の授与性を持つ<sup>29</sup>。更に、話し手にとって、有益な事物の授与とは評価できない場合に、敢えて用いることで皮肉の表現ともなり得る点も共通している。

(84) この子ってば、散らかしてくれたよ。 这个孩子, 给我搞糟了。

3.2.1.2. “帮” [動詞] を用いる

“帮” [動詞] のもつ「助ける・手伝う・代わりに～してやる」という意味から、動作行為自体がその行為の対象者に受益として与えられることが表現される。その動作行為を利益として受領する立場の者(話し手本人もしくは身内)が間接賓語であり、主語が与え手でもそのと考えられる者に立脚点が置かれることで、先の [3.1.3.2.] の「～てさしあげる」ではなく、「～してくれる」という日本語の表現に対応することとなる。

(85) 鈴木さんが自転車を修理してくれた。 铃木帮我修理了自行车<sup>30</sup> (文)

(86) 自転車がパンクして困っていたら、知らない人が手伝ってくれて、本当に助かった。

自行车爆了胎, 正当我不知如何是好的时候, 一个陌生人来帮了我, 真是太万幸了。 (文)

3.2.1.3. 動作行為の対象(人)の存在が不可欠で、その行為自体が対象に利益や恩恵をもたらしうる動詞を用いる

“教”(教える)、“告诉”(告げる、知らせる、教える)など二重賓語を取る動詞の直後に間接賓語が置かれる「(事柄を表す賓語) + 施事 + 動詞 + 間接賓語」という構文となっている。

(87) では事柄を表す賓語が省略されている。

(87) 先生がよく教えくれた。 老师耐心地教我(们)。 (日)

(88) 誰もそのことを(私に) 教えてくれなかった。 这件事谁也没有 告诉我。 (文)

3.2.1.4. 動作行為の対象のために特別に動作行為を行う意味を示す修飾語を用いる

“好不容易”(やっとのことで・ようやく・やっと)、“特地”(特に・わざわざ・もっぱら)には、動作行為の及ぶ対象のために、わざわざ動作が行われたことを表す意味が含まれている。これは、[3.1.2.3.]と同様に対象のために動作行為を行うことを強調することで、「～てくれる」の利益・恩恵の授与と受領を明示するのと同じ効果がある。

(89) 好不容易迎えに来てくれたのに、すれ違いになってしまっでごめんなさい。

你 好不容易来接我, 我俩却走岔了路, 真对不起。 (文)

- (90) あなたが病気だと聞いて、彼は心配してわざわざお見舞いに来てくれた。  
听说你病了,他特地来看你。 (中)

### 3.2.1.5. 請求・命令の表現を用いる

請求・命令・許容・譲歩を求める内容に対して、「～てくれる」に対応する中国語“帮”・“教”・“给”と次のような疑問文を共起することで「相手に許容・譲歩することができますか?」と尋ね、婉曲な請求・命令の表現にする。中国語では疑問文に“～好吗?”(よろしいですか?)、“能～吗?”(可能でしょうか?)等の表現を用いる。聞き手に請求・命令のゆるやかな表現として許容・譲歩を求めているということは、話し手にとって有益な新条件を得る、つまり話し手が利益を受領することを意味するため、主語として与え手(よそもの)に立脚点のある「～てくれますか」という日本語が対応する。ただし、日本語では更に婉曲的な表現とするため「～てくれませんか」という否定形の方が多く用いられる。

#### ①注意喚起表現

- (91) すみませんが、ちょっと静かにしてくれませんか。  
对不起,稍微安静一下好吗? (文)

#### ②請求・依頼表現

- (92) この本、そこの棚に入れてくれる?  
你把这本书帮我放到那边的书架上,好吗? (文)
- (93) もしよかったら、うちの子に英語をおしえてくれないか?  
如果可能的话,你能教我们孩子学英语吗? (文)
- (94) ちょっとこの荷物運んでくれないか?  
能帮我搬一下这个行李吗? (文)
- (95) 山田君に何か食べる物を作ってやってくれないか。  
能给山田做给吃的吗? (文)

中国語では、疑問形式ではなく重ね型を用いて語気を和らげ、日本語の疑問文ではない請求・依頼表現に対応させた用例もある。

- (96) 息子にもう少し勉強するように言ってやってくれ。  
说说我的儿子,让他再好好多念点书。 (文)

### 3.2.2. 「動詞+てくださる」

#### 3.2.2.1. “帮”[動詞]を用いる

“帮”[動詞](助ける・手伝う・代わりに～してやる)が用いられる理由は「～てくれる」に同じである。([3.2.1.2] 参照)やはり、中国語において敬語表現の違いは見られない。

- (97) 先生が論文をコピーしてくださった。 老师帮我复印了论文。 (文)



### 3.2.2.2. 動作行為の対象のために特別に動作行為を行う意味を示す修飾語を用いる

“专程”（ある目的のために赴く）・“为”（～のために）が「わざわざ対象のために動作行為がおこなわれる」ことを強調することで、利益・恩恵の授与と受領を明示している。

(98) 明日山田さんがわざわざうちにまで来てくださることになった。

约好了, 明天山田专程到我们家来。 (文)

(99) どうも今日はわざわざおいで下さってありがとうございました。

您今天专程赶来, 真是万分感谢。 (文)

(100) せっかくいろいろ計画して下さったのに、だめになってしまって、申し訳ありません。

您为我们的事情如此筹划, 我们却没有办成, 真是对不起。 (文)

### 3.2.2.3. 請求・命令の表現を用いる

「～てくれる」の [3.2.1.5.] と同様“帮”と共に、請求・命令・許容・譲歩を求める内容に対して、婉曲な表現として疑問文“～好吗?”（よろしいですか?）、“能～吗?”（可能でしょうか?）を用いる。中国語において敬語表現の違いは見られないが、動詞が“帮”に絞られている。

請求・依頼表現

(101) ついでにこの手紙も出しておいてくださいますか?

随便帮我把这封信寄了好吗? (文)

(102) ちょっとこの書類、ミスがないかどうかチェックして下さいませんか。

你帮检查一下, 看这份稀料有没有错。 (文)

(103) ちょっとここで待っていてくださる? 在这儿等我一下, 好吗? (文)

(104) 一緒に行ってくださいらない? 你能跟我一起去吗? (文)

## 3.3. 「受け」の補助動詞「動詞+てもらう」類

### 3.3.1. 「動詞+てもらう」

「～てもらう」の意味について、奥津（1981,p.97-99）は実は二種類の意味があるとしている。基本的意味としては、利益的行為の取得（身内である主文の主語が、よそものである補文の主語の行為を、利益として取得する。）と、派生的意味<sup>31</sup>の使役的行為の謙讓的表現（謙讓的使役。他人にあることをさせて、こちらの目的を達し、またこちらがその利益を受ける意、あるいは他人に依頼してあることをさせる意。）<sup>32</sup>である。以下の使役動詞を用いる用法と、“请”を用いる用法（(105)～(109)及び(110)～(112)の用例）が後者の意味に相当する。

#### 3.3.1.1. 使役表現を作る動詞（“让”）を用いる

[3.1.1.2.①] の「～てやる」では、“给”・“让”・“叫”の三つの使役を表す動詞がみられたが、「～てもらう」には主として“让”[動詞]（～に～させる・～させておく・～するようという）が対応している。<sup>33</sup>使役を表すものとしては、現代中国語の口語において“让”は最もよく用いられる動詞である。“让”はもともと、「譲る」という意味から、「所有権や

「使用権を譲り渡す」<sup>34</sup>という意味や、「争い・競争などの中で、有利な条件を相手に与え、自分が不利益を被る」<sup>35</sup>という意味を持つ。譲る意味から更に、「させる、許容する、勝手にさせる」<sup>36</sup>という意味を持つ。構文形式においては、“让”も他の使役の動詞と同様に必ず兼語式を構成する。

奥津(1981,p.93)は、中国語の兼語式を「埋め込み構造」と称し「～てもらおう」文も埋め込み構造と考えられることから、兼語式と「～させる」・「～られる」が同義であるとはいえないものの、その関連性を指摘している。「共通するところは、日本語・中国語いずれにしても、補文が同じ内容を持ち、主文の主語が主文の動詞を介して補語の主語と或る関係一使役・受身・利益の取得など一にあるということである。そしてこの共通点こそが、A類謙語式<sup>37</sup>と『～てもらおう』文との間の翻訳可能性、あるいは日本語において『～てもらおう』文と使役文・受身文との関係を示す点なのである。」(同,p.96) 兼語式については、既に[3.1.1.2.]で述べた通りであるが、例えば、(105)の中国語は「私は<医者が病気を診る>ということをしてささせる。」、日本語は「私は<医者が病気を診る>ということをしてもらおう。」と言っており、「そして私はその恩恵を受ける。」という点において最終的な恩恵の受領という共通点を認めることが出来る。

- (105) 医者に診てもらおう。      让医生看病。      (日)
- (106) ねだって買ってもらおう。      央求着让买。      (日)
- (107) 直接来てもらおう。      让对方直接来。      (日)
- (108) みんなに1000円ずつ出してもらって、お祝の花束を買った。  
让每个人拿出1000日元买了束鲜花表示祝贺。      (文)
- (109) いろいろと準備してもらったのに、中止になってしまって申し訳ありません。  
让大家准备了半天,但又取消了,真对不起。      (文)

### 3.3.1.2. “请”を用いる

#### ①使役要求表現

“请”も“让”と同じく兼語式をつくる動詞であり、「～を請う」という意味から「<相手に～することを>要求・依頼する」という構造を作る。このような“请”の意味を奥津(1981,p.96)は1.目的の“请”(要求文:NP1がNP2にV2させるために、NP2に請求する。)、2.結果の“请”(要求使役文:NP1がNP2に請求して、V2させる。)の二つに分けているが、「目的か結果かを示す標識は特にないので、いずれの解釈を取るかは、結局文脈によるほかはない。」としている。このうち「～てもらおう」と共通点が見いだせるのは、(同,pp.99-100)「結果の“请”、つまり要求使役文であり、「～てもらおう」が派生的な謙讓使役文である場合、その使役文という一致点において両者に翻訳可能性が出てくる。(中略)もうひとつの条件は、いうまでもなく主語である。中国語として“请”自体は、それがとる主語に制限はない。(中略)しかし、『～てもらおう』の主語の方は、既に述べたように身内でなければならない。だから、“请”の主語が身内である場合にだけ『～てもらおう』と訳すことが出来る。」とする。

要するに、“请”の要求的使役文でありA類の兼語式を作るものは、主語が身内の場合、「～

てもらおう」に対応するということになる。

- (110) 頼んで郵便で送ってもらおう。 请对方用邮件寄来。 (日)  
(111) 彼にお願いして一緒に行ってもらおうほうがいい。还是请他和你一同去好。 (日)  
(112) 私はタイ人の友達にタイ料理を教えてもらった。请泰国朋友教我做泰国菜。 (文)

## ②要求表現

直後に動詞が置かれており、[2.2.1.3.]の受け動詞「もらおう」でも対応が見られた敬語表現の“请”である。

- (113) プリントが足りなかったら、隣の人に見せてもらってください。  
讲义不够的活, 请看旁边的人。 (文)

## ③類義語を用いた要求表現

“请”よりも硬い表現“请求”(頼む・願う・申請する)を用いる。

- (114) 頭を下げて許してもらおう。 低头道歉请求原谅。 (日)

### 3.3.1.3. 動作行為の対象(人)の存在が不可欠で、その行為自体が対象に利益や恩恵をもたらしうる動詞を用いる

#### ①“告诉”(告げる)

- (115) 中村さんに教えてもらったのよ。 是中村告诉我的呀。 (日)

#### ②“带”(率いる・連れる)

- (116) 今年の冬は、ホストファミリーにスキーに連れて行ってもらいました。  
今年冬天寄宿舍在那家的家人带我去滑雪。 (文)

#### ③“借”(借りる・貸す)

ただし、中国語の“借”は動作行為における物の移動だけを指すため、動詞だけで方向性を示すことが出来ない。そのため、「貸す」・「借りる」の両方に対応することになる。そこで、“向”や“跟”といった介詞を動作行為の対象者に付すことによって、方向性を決定づける。

(117a)では“向”(～に向かって・～へ・～に)を付すことで、誰から借りたかを明示している。

- (117a) 山本さんに香港映画のビデオを貸してもらった。

向山本借了香港电影的录影带。 (文)

または、中国語では、動詞の後に賓語として動作行為を受ける人物を置き、方向性を示す事も可能であるが、その場合は、主語が変わり、立脚点もよそのからとなるため日本語は「与え」の補助動詞で表される。

- (117b) 山本さんが私に香港映画のビデオを貸してくれた。

山本借了我香港电影的录影带。

### 3.3.1.4. 中国語の請求・命令の表現を用いる

「～てくれる」[3.2.1.5.]と同様に、「～てもらおう」における請求・命令を求める内容に対して、中国語では“帮”を用い、同時に婉曲な表現として疑問文“能～吗?”(可能でしょうか?)を用いる。つまり、日本語のよそものから身内に事物が移動する「与え」補助動詞と「受け」補助動詞における請求・命令の婉曲表現、「～てくれますか(ませんか)」と「～てもらえますか(ませんか)」に対応する中国語表現に相違は見られないということになる。また、禁止表現の場合は、“别～吗?”の形式となる。

#### ①請求・命令表現—“能—吗?”

(118) ちょっとドア、閉めてもらえる? 能帮我打开一下门吗? (文)

(119) 買い物ついでに郵便局へよってもらえるかな。

你去买东西时,能顺便去趟邮局吗? (文)

(120) ちょっとペン貸してもらえますか。 能借给我支笔用用吗? (文)

(121) ねえ、わるいけどちょっと1000円貸してもらえない?

喂,不好意思。能借给我1000日元吗? (文)

#### ②禁止表現—“别”

(122) すみません、ここは子供の遊び場なんですけど、ゴルフの練習はやめてもらえませんか。

对不起,这里是儿童游乐场,别在这练高尔夫好吗? (文)

(123) ここは公共の場なんですから、タバコは遠慮してもらえませんか。

这里是公共场所,别吸烟好吗? (文)

### 3.3.1.5. “能”を用いる

“能”は多くは可能性を意味し、ここでは日本語の「<sup>あた</sup>能う」、「なしうる」に当たる意味を表している。

(124a) あなたに喜んでもらえたら私は嬉しい。<sup>38</sup> 能让你喜欢我很高兴。

(124b) あなたが喜んでくれたら私は嬉しい。 您能喜欢我很高兴。

(124a) の中国語は「あなたを喜ばせるに能いし私は嬉しい」、(124b) の中国語は直訳では「あなたが喜ぶに能いし私は嬉しい」となる。前者は、使役表現を用いることで全文を通して主語の相違はなく、後者は前半と後半で主語の違いがある。いずれも聞き手にとってのプラス要件の可能性を示し、続いて「私は嬉しい」という話し手のプラスの感情を提示することで、話し手にとっての恩恵の授領がみられるが、(124a) は前半の主語が私で受け手であることから受け補助動詞「～てもらおう」が、(124b) は前半の主語があなたで私に対しての与え手であることから与え補助動詞「～てくれる」が対応する。

### 3.3.2. 「動詞+ていただく」

3.3.2.1. 動作行為の対象（人）の存在が不可欠で、その行為自体が対象に利益や恩恵をもたらしうる動詞を用いる。

#### ① “送／寄” [動詞] + “到／来” [補語]

“送”（送る・見送る・送っていっしょに行く）や“寄”（郵送で送る）という動詞に補語の“到”（その場所への到達を表す）で「送り届けるという」意味や、“来”（動詞の後に用いて、人や事物を話し手の方あるいは話題の中心点へ近づけさせる動きであることを表す）が付くことで、「送り届け」という意味を表す。その意味内容から、動作行為の受け手に対する利益の授与が表され、また主語の受け手に立脚点があることから、「～ていただく」という日本語の表現に相当することとなる。

(125) 友達のお父さんに駅まで車で送っていただきました。

朋友的父亲用车把我们送到了车站。 (文)

(126) 《手紙文》 珍しいものをたくさんお送りいただき本当にありがとうございました。

《信函文》 您寄来那么多珍贵的东西, 真是满分感谢。 (文)

#### ② “告诉”（告げる・知らせる・教える）を用いる

(127) 高野さんに教えていただいたんですが、この近くにマッサージ師がいるそうですね。

是高野告诉我们, 听说这附近有一位手艺很好的按摩师啊。 (文)

(128) 会議の日程は、もう、山下さんから教えていただきました。 (文)

关于会议的日程, 山下已经告诉我了。

### 3.3.2.2. “请”を用いる

#### ① 要求表現

敬語表現の“请”（どうぞ～してください）を用いる。「もらう」や「～てもらう」にも対応が見られたが、「～ていただく」の方が指示性の強い要求内容となっている。

(129) まず、一階で受け付けを済ませていただきます。

首先请在一楼办理报道手续。 (文)

(130) この書類に名前を書いていただきます。そしてこの印鑑を押していただきます。

请在这份表格上填上姓名。然后, 请在这里盖章。 (文)

### 3.3.3. お・ご+「名詞+いただく」

#### 3.3.3.1. 婉曲な謝絶や禁止表現を用いる

##### ① 禁止表現

中国語の“谢絶”（謝絶する・断る）や“不能”+動詞（いけない・禁止を表す）を用い、婉曲的な謝絶及び禁止を表す。聞き手に対して、禁止・容認・譲歩を求めているということは、話し手にとって有益な新条件を得る、つまり利益を受領することを意味するため、お・ご+「名詞+いただく」という日本語の敬語表現が対応する。



- (131) 3歳以下のお子様はコンサート会場への入場をご遠慮いただきます。  
 谢绝 3岁以下儿童进入演唱会场。 (文)
- (132) クレジットカードはご利用いただけません。  
 此处不能试用信用卡。 (文)

4. 日本語と中国語の授受表現にみられる対応関係

以上、今回収集された用例のうち代表的な用法を整理したものが「日中の授受表現における用例の対応関係」表(1)である。

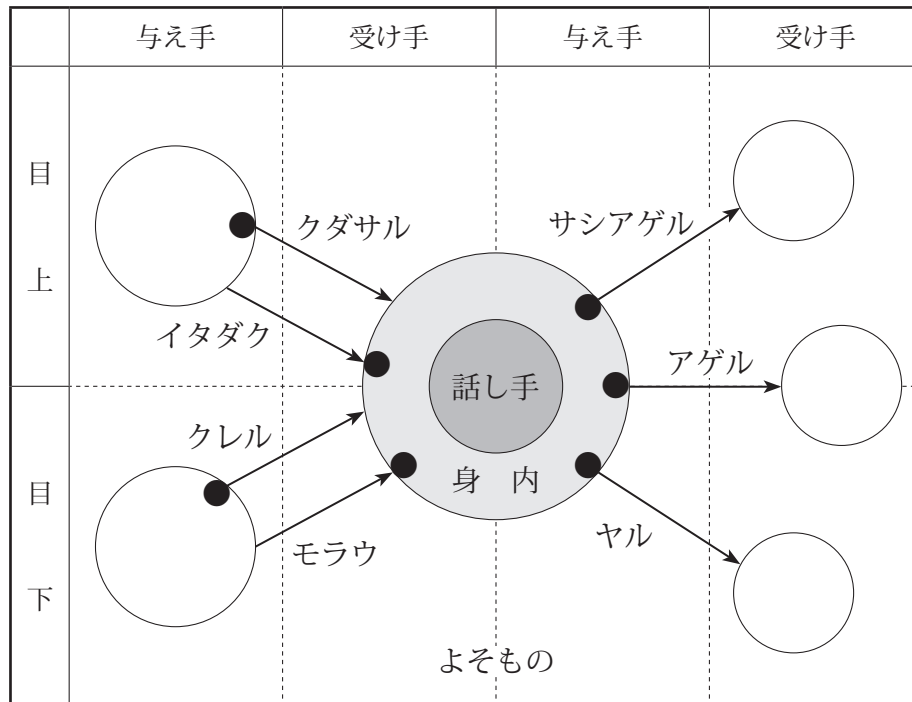
日中の授受表現における用例の対応関係 表(1)

授受表現	“给” [動詞]	“给” [介詞] を用いる	“来” [動詞] を用いる	獲得と受 領の動詞	“请” (敬語)	“请” (兼語式)	使役表現を作 る動詞 (“给”・“让”・ “叫”)を用い る	動作行為の対象 (人)の存在が 不可欠な動詞	(“为”[介詞])	“帮”	“把” 構文	請求命令禁止	そ の 他
与え動詞													
やる	○	○											
くれる	○		○						△慣用的 使役表現				
もらう			○	○	○								
補助動詞													
てやる		○					△“给” “让”・“叫” (決意のみ)	○“教”・“说”・ “揍”・“理睬” “叫”		○	○		“悼” “去”
てあげる		○						○“叫” “带”	○“为”				
てさしあげる								○“送”+ “到”・“回” (“把”構文)		○	○		
てくれる		○						○“教” “告诉”	○“特地” “好不容易”	○			○
てくださる									“专程” “为”	○			○
てもらう					○	○	○“让”	○“告诉” “借” “带”	△“为” ○“好不容易” “专程”				○“能”
ていただく					○	○		○“送”・“寄” + “到”・“来” “告诉”					
ご・お ～ていた だく												○	

表(1)からは、日中間の対応関係に相対的内包を見出すことが出来るものと、見出しにくいものの両方があることが見て取れる。では、それらは日本語と中国語間の翻訳の難易度に影響を与えるものなのか、まず、相対的内包が見出せるものについて、個別に取り上げて検証する。

表(1)の左端の縦軸には、日本語の授受動詞・補助動詞を記した。この日本語の授受表現の相違を分かりやすく端的に図表化したものが奥津(1983,p.26)にある。図(1)に引用する。

日本語の授受動詞・補助動詞における動作の方向性と主語の関係 図(1)<sup>39</sup>



●は主語 (例えばクダサルなら目上の与え手が主語)

#### 4.1. 与え動詞に対応するもの

##### 4.1.1. 与え動詞「あげる(やる)」と「くれる」のいずれにも対応する

##### 4.1.1.1. “給” [動詞]

図(1)によれば、「やる(あげる)」と「くれる」は、主語に立脚点があり与え手から受け手へという面では共通しているが、話し手にとって身内からよそものへか、よそものから身内へかという点においては対照的な関係にある。しかし、中国語では身内⇄よそものとの別がないことから、中国語においてはそのこと自体が問題にならない。そして、“给”という動詞は主語<sup>40</sup>(ここでは動作主)と賓語(動作の対象)の間の事柄や事物の授受によって所有権が移動することだけを表しているため、日本語のこれら二つの与え動詞に対して区別が生じない。とはいえ、中国語の母語話者<sup>41</sup>にとっては、日本語における主語と動作行為の対象のどちらが身内かよそものか(主語が身内⇒あげる、主語がよそもの⇒くれる)という相

対的な使い分けの判断基準がはっきりしているため、さほど難解なものとはならない。

#### 4.1.2. 与え動詞「くれる」と受け動詞「もらう」に対応する

##### 4.1.2.1. “来”

日本語の「くれる」と「もらう」に共通するのは、動作行為による事物の移動が話し手に向かって行われる点である。この話し手に向かってくる方向性を表すのに最も簡潔な動詞の一つが“来”(くる・よこす)である。日本語の「くれる」・「もらう」において異なるのは「与え手主語」か「受け手主語」かという点である。中国語では、身内とよそもの概念がない。両方とも話し手にとってのよそものから身内へ事物が移動するため混同しやすいが、主語が与え手か受け手のどちらなのかを判断することで日本語での区別は可能である。

#### 4.2. 授受動詞と補助動詞の両方に対応するもの

##### 4.2.1. 与え動詞「やる(あげる)」、そして「与え」の補助動詞「～てやる(てあげる)」類と「～てくれる」類、いずれにも対応する

###### 4.2.1.1. “给”[介詞]

これらの日本語の与え動詞及び補助動詞に対しては、中国語では介詞“给”を用いることで、その動作行為の行き先(対象)を明示し、動作行為の方向性(矢印)を示している。ただ、やはり、日本語と異なり身内とよそもの意識はなく、単に誰が誰へという主語とその対象への方向性を示すのみである。

#### 4.3. 補助動詞に対応するもの

##### 4.3.1. 「与え」の補助動詞「～てやる(てあげる)」類と「～てくれる」類のいずれにも対応する

###### 4.3.1.1. “帮”

“帮”[動詞]の意味が「～を助ける・～を手伝う・代わりに～してやる」というものであり、そこから通常の動作行為を動作主からの恩恵として表現することが出来るようになる。主語が利益・恩恵を授与する文ならば、話し手の身内からよそものに向かって動作行為が行われる場合でも、その逆の場合でも使用される。そのため利益、恩恵の授与を意味する日本語の二種類の「与え」の補助動詞の意味に重なることとなり、多くの用例がみられた。

##### 4.3.2. 「与え」の補助動詞「～てやる(てあげる)」類と「受け」の補助動詞「～てもらう」類に対応する

###### 4.3.2.1. 使役表現を作る動詞(“给”・“让”)

「与え」の補助動詞「～てやる(てあげる)」類、「受け」の補助動詞「～てもらう」類に対応する中国語の使役表現は、いずれも主語が賓語である被使役者に動作行為をさせることを示す。その際、利益や恩恵が受け手に向かう場合(賓語=受け手)、中国語では主に介助を伴う“给”が用いられ、日本語では「～てやる(てあげる)」が対応する。反対に、主語

側に利益や恩恵が向かう場合（主語=受け手）、中国語では主に“让”が用いられ、日本語では「～てもらう」が対応する。

#### 4.3.3. 「与え」の補助動詞「～てくれる」類と「受け」の補助動詞「～てもらう」類のいずれにも対応するもの

##### 4.3.3.1. “为(了)”・“专程”・“好不容易”等

「～ために」と「与え」の補助動詞「～てやる（てあげる）」は、主語が話し手にとって本人または身内であるという条件が必要であることから、場合によっては恩着せがましい印象を与えることになり、使える場面が限られる。そのため基本的には、「～てくれる」類と「～てもらう」類の対応になる。

中国語ではこれらの介詞や副詞を用い誰かのために行うことや、または、（誰かのために）わざわざ動作行為が行われたことを示すことで、動作行為の対象を明示することになる。この点においては“给”[介詞]のその動作行為の対象を示し、動作の方向性を明示する方法とプロセスは似ている。ただし、中国語で“给”[介詞]と異なるのは、“为”（ために）のたぐいは主語が対象のために行う動作行為であることから、「受け」の補助動詞の「～てもらう」類にはそのままでは対応しない点である。少なくとも“让”を用いて「～のために動作行為をさせた」などの使役の構文にする必要がある。

“为(了)”の例：

- (133a) △山田さんは鈴木くんのために教科書を持ってきてあげた。<sup>42</sup> 山田为了铃木带来了课本。  
(133b) 山田さんが鈴木くんのために教科書を持ってきてくれた。 山田为铃木拿给了课本来。  
(133c) 山田さんに鈴木くんのために教科書を持ってきてもらった。 让山田给/为铃木拿了课本来。

“专程”の例：

- (134a) ×山田さんはわざわざ来てあげた。  
(134b) 山田さんがわざわざ来てくれた。 山田专程来了。  
(134c) 山田さんにわざわざ来てもらった。 让山田专程来了。

(133a)、(134a)のような例も複文となり、後半に否定文がくると日本語「～あげた」に対して中国語での対応が可能となる場合もある。

- (135) 私がわざわざ作ってあげたのに、どうして食べないの？  
特地为了你作了菜,你怎么不吃。

“终于”の例：

- (136a) ×彼はとうとう来てあげた。  
(136b) 彼がついに来てくれた。 他终于来了。  
(136c) 彼によようやく来てもらった。 终于让他来了。

“好不容易”の例：

(137a) ×彼はようやく来てあげた。

(137b) 彼がようやく来てくれた。 他好不容易来了。

(137c) 彼がようやく来てもらった。 好不容易才让他来了。<sup>43</sup>

#### 4.3.3.2. 中国語の請求・命令・禁止・謝絶

そもそも請求・命令・禁止・謝絶とは、身内からよそのものには向かうことはないため、日本語の「～てやる（てあげる）」類はこれと対応しない。しかし、「与え」の補助動詞「～てくれる」類と「受け」の補助動詞「～てもらう」類の両方にまたがって、中国語との対応関係がみられる。中でも、中国語では“帮”＋“我”＋疑問形式の対応が非常に多く見られ、これは、直訳すると「私を（助けて）～してくれますか。／私を（助けて）～してもらえますか。」という日本語の表現になるため、一般的な「～てくれる」・「～てもらう」（話し手にとっての「与え補助動詞」か「受け補助動詞」か）の区別よもはるかに難しい。日本語では物を頼むとき、受け手に回ることによって更に控えめで婉曲的な表現を行うためと考えられるが、こうした概念は“帮”＋“我”＋疑問形式という同一構文に一本化されてしまうため、中国語話者にとっては、極めて使い分けが難しいとされる問題である。特に、日本語の「～てくれる」と「～てもらう」を用いたこれらの用法の区別はこれ以外にも不明瞭な所がある。（[5.1.3.] 参照）

#### 4.3.4. 三種類の補助動詞「～てやる（てあげる）」類・「～てくれる」類・「～てもらう」類に対応する

##### 4.3.4.1. 動作行為の対象（人）の存在が不可欠で、その行為自体が対象に利益や恩恵をもたらしうる動詞を用いる

“教”・“说”・“理睬”・“叫”・“带”・“送”・“告诉”・“借”・“送”・“寄” [動詞]＋“到・来” [補語] 形式など、動作行為の対象（人）の存在が不可欠で主語がその行為を行うことで対象に利益や恩恵をもたらしうる動詞、または、それに方向性を持つ補語併用するものが、補助動詞全体に対応する。

#### 4.4. 日本語と中国語における授受表現の相対的内包について

授受表現については、語彙レベルでは中国語よりも日本語の方がはるかに複雑な体系を持っている。これまで見てきたように、中国語には、文に現れる主語や賓語が話し手にとっての身内かよそのかという区別がないが、利益や恩恵（また時に不利益）の移行があった場合、中国語では授受に対して、どこからどこへそれが移行するのかという方向性を与えることで対応している。その役割を次のようなものが担う。



- ・ 語彙レベルでは、起点を表す介詞や到達を示す補語を用いる。例：“给”“到”  
利益の供与先を取り立てる副詞を用いる。例：“为”  
幫助の意味を持つ動詞を併用し動作に利益・恩恵性を持たせる。例：“帮”  
語義に対象者への利益・恩恵性を持った動詞を用いる。例：“送”
- ・ 文型レベルでは、使役マーカ―を用いて使役文を作り動作主と受け手の関係を明示する。  
例：“给”“让”

## 5. 日本語と中国語の授受表現において相対的内包の見出しにくい対応関係

中国語では、ここまで、日本語の授受表現に対応する中国語を挙げてきたが、その一方で相対的内包が見出しにくい対応関係も存在する。最後に、これらの具体的な例をいくつか提起し、今後の検証課題としたい。

### 5.1. 日本語の授受を表す補助動詞と中国語の表現に係わる難点

#### 5.1.1. 動作の対象を示す介詞“把”と“给”

中国語では、介詞などを用いて動作行為の対象を明らかにすることで動作行為の方向性を明示し、日本語の与え手と受け手の間にある（と想定される）動作行為の矢印の方向を表していることは、これまでに述べたとおりである。そして、日本語の授受を表す補助動詞の翻訳において見られた動作行為の及ぶ対象を示す介詞のうち、よく用いられるものは“把”[介詞]と“给”[介詞]である。この二者は、“给”を用いたほうが、日本語の「～てやる（てあげる）」というニュアンスがよりはっきりと表現できる点で異なる。これは、“把”[介詞]が動作対象を取り立てて示すのに対し、“给”[介詞]には、動作・行為の受益者を導く（～のために・～に）という意味があるためである。(79)の『日本語文型辞典』の用例のニュアンスを厳密に翻訳すると次のような対応となる。

(138a) あなた、お客様を駅までお見送りしたらどうですか？

喂, 你去把客人送到车站, 怎么样?

(138b) あなた、お客様を駅までお見送りしてさしあげたら？

喂, 你送给客人到车站去, 怎么样?

#### 5.1.2. “告诉”と“知会”

「与え」の補助動詞において、「～てくれる」と「～てやる（てあげる）」は話し手にとっての主語がよそものか身内かという距離感が逆の関係にある。しかし、中国語において、日本語のように主語と賓語を入れ変え、話し手にとっての身内とよそもの関係を逆転させれば、単純に「～てくれる」と「～てやる（てあげる）」といった表裏の表現に相当するとは限らないものがある。

(139a) 会議の日程は、もう、山下さんが教えてくださいました。 (文)

关于会议的日程, 山下已经告诉我了。

(139a) の中国語の主語と賓語の名詞を入れ替えると (139b) のような文と日本語の意味になる。

(139b) 会議の日程は、もう、山下さんに教えました。  
关于会议的日程, 我已经告诉山下下了。

日本語で逆の関係にある「～てやる (てあげる)」を使いたければ、中国語では動詞も変える方が適切な表現となる。“告诉”よりも“知会”の方が、連絡するだけでなく内容が伝わったことが露わになり、利益・恩恵の授与が明確になるからである。

(139c) 会議の日程は、もう、山下さんに教えてあげました。  
关于会议的日程, 我已经知会山下下了。

### 5.1.3. 「～てくれる」と「～てもらう」

日本語の授受動詞「くれる」と「もらう」は、いずれも与え手から受け手に動作行為が行われるものだが、主語となる立脚点異なることで使い分けられるため、中国語話者にとっては、主語の違いに着目すればよいわけで比較的区別はしやすいもののうちに入る。例えば、「先生が私にくれた物」「老师给我的东西。」中国語のように主語と賓語の関係によって授与を表すか、「先生に私がもらったもの」「从老师那儿我收到的东西。」のように、主語 (動作主) を定め、介詞を使って動作行為の起点と着点を示すことで授与を表し、各々「もらう」と「くれる」に相当する表現を表すことが出来る。

だが、補助動詞「～てくれる」と「～てもらう」となると状況が違って来る。

- (140a) 「あなたがやってくれますか。」 你能给我做吗?  
(140b) △「あなたがやってもらえますか。」<sup>44</sup> 你能帮我做吗?  
(140c) 「あなたにやってもらえますか。」 你能帮我做吗?

(140a) の例文は、“给”(～ために・～に) という意味の介詞を用いるが、(140b) と (140c) は共に“帮”を用いた同じ中国語の対応となっている。しかし、日本語の方はこのような「～てくれる」と「～てもらう」の両方が対応可能であり、更に厳密な区別をせずに使用する例が多く見受けられる。

### 5.1.4. コンテキストによる「～てやる (てあげる)」と「～てくれる」

これまで、単文を中心に日本語の授受表現との対応関係を見てきたが、実際の日本語の授受表現はやはりコンテキストにおいて存在するものである。授受表現というからには、通常、利益や恩恵に相当する事物の授受が存在し得るわけだが、果たしてその恩恵は誰が受領するものなのか。例えば次の中国語“妈妈给弟弟买了糖果。”<sup>45</sup>は場合によって、「～てやる (てあげる)」、「～てくれる」いずれの日本語にも対応しうる。

単文の場合、(141a) “妈妈给弟弟买了糖果。” (お母さんは弟にお菓子を買ってやった。)

複文の場合、(141b) “妈妈给弟弟买了糖果, 所以他不哭了, 因此我得以安静读书。”

(お母さんが弟にお菓子を買ってくれたので、弟は泣きやみ、そのお蔭で私は静かに勉強す

ることが出来た。)

複文の場合、文脈から話し手が恩恵を受けることが明らかとなるため、受け手の評価の表明として、「～てくれた」が使われている。益岡 (2012,p6) は、このような恩恵文に対してテクレル受益文と呼び、「話し手にとって利益的・恩恵的なものであることを表したいとき、テクレル受益文が大きな力を発揮することになる。このような話し手の受益感を明示するテクレル受益文は日本語に特徴的な受益文である。」としている。

ただ、ここでいう評価とは、話し手が直接受け取る恩恵に基づくものとは限らない。

例えば、

(142) 小李给学校的花坛浇水 (, 花又复苏了)。

(李君が学校の花壇に水をやってくれた (ので花は生き返った)。

つまり、この評価とは、自分にとっての損得や都合という狭い価値観によるものではなく、歓迎すべき事態か否かという「対象に対しての動作行為が行われたことへの社会的プラス評価」を意味している。

#### 5.1.5. “给你”と“为你”

“给你”は [3.1.2.1.] でも述べたが、恩恵を強調する場合、「あなたのために」と訳すこともできる。そのため、この“给你”と“为你”は、いずれも「あなたのために」という日本語が対応することになる。しかし、対象への授与性の強さ、つまり利益・恩恵の授与性に対して強弱があり、その結果「～てやった (てあげた)」という日本語との対応関係が異なる。敢えて訳し分けるならば、(143b) と (143c) のようになる。

(143a) 我带来好消息。 (私はよい知らせを持ってきた。)

(143b) 我给你带来好消息。 (私はあなたのためによい知らせを持ってきてやった。/てあげた。)  
→ “给”の対象に対する授与性が強い。<sup>46</sup>

(143c) 我为你带来好消息。 (私はあなたのためによい知らせを持ってきた。)

→ “为”の対象に対する授与性が低い。

#### 5.1.6. ニュートラルな表現とネガティブな感情表現—「やる (あげる)」と「くれてやる」

(144a) そんなにほしけりゃくれてやろう。 既然那样想要就给你吧。 (日)

この日本語は相手を見下したり、ネガティブな感情を表したりする侮蔑的表現であり、目下の者や、忌々しく思っている者に物を与える際に用いる。

(144a) の『日中辞典』(第2版)の中国語の翻訳では、授与を表す“给”が用いられるが、この中国語訳からは侮蔑的なニュアンスは表現されていない。そのためニュートラルな日本語表現として正確を期するならば、本来は次のような翻訳の方が適当である。

(144b) 既然那样想要就给你吧。 → そんなに欲しいなら君にやる (あげる)よ。

逆に、「くれてやる」の表現が生かせるのは次のような中国語表現である。  
 (144c) 既然那样想要就那你拿走吧。→ そんなに欲しいならくれてやるよ。

この二例の中国語の違いは、後半の给你（あなたにあげる。）と那你拿走（ならば、あなたが持っていきなさい。）の部分にある。この後半の下線部のみを分析すると、(144b)は主語が“我”、動作対象を示す賓語が間接賓語の“你”、(144c)は、主語が“你”で賓語はなく動詞と結果補語で動作とその結末を表示している。

これまで、中国語では日本語の「やる（あげる）」と「くれる」のような、主語が身内かよそものであるかという区別がないとしてきたが、このような感情を表す文において中国語では主語を“我”（話し手）ではなく“你”（聞き手）に入れ替えて提示することでこの違いに対応する表現をしている。(144c)にみられる日本語の「くれてやる」を「くれる」と「やる」に分けて考えると、「くれる」は「A（私＝話し手）がB（君＝聞き手）に物をくれる」というA（私）の立脚点に拠る表現。一見、この「くれる」がおかしな日本語に見えるのは、これがB（君）にとっての発想（A（私）がよそものでB（君）が身内という対応関係）であるためである。「やる」は「A（私）がB（君）にやる」というA（私）の立脚点による身内からよそものへの表現で、これはストレートに全体の主語であるA（私）にとっての発想である。つまり合わせると、「B（君）にとって『A（私）がB（君）に物をくれる』という出来事を『A（私）がB（君）に与えてやる』」と解釈出来る。

中国語ではこの解釈の前半部分で起きている「Bにとって～」という発想の変換を、主語を話し手ではなく聞き手に入れ替えることで実現し、聞き手にとって投げやりな印象となる命令的な句調で、日本語の「くれてやる」を表現していると考えられる。

## 5.2. 日本語と中国語の授受表現における相対的内包の見出しにくい点

授受表現について、体系的な語彙レベルとしては中国語よりも日本語の方が複雑であると言ったが、裏を返せば体系的にまとめられないところに中国語の授受表現の対応の難しさがある。

- ・語彙レベルでは、中国語では語義に利益や恩恵性を含意するものを授受表現に活用する。しかし、個々の語の語義に拠るものであるため煩雑で、日本語の授受表現に対しての語彙や文法レベルでの系統的な対応関係が見出しにくい。
- ・文型レベルでは、日本語のように、話し手にとっての身内とよそものという距離感の概念がないため、そこに更に与え手と受け手、話し手を聞き手という複数の要素を重ねて使い分ける必要がある日本語に対して、翻訳で同等レベルの使い分けを示すことが出来ない。文中において主語を差し替える、使役文に転換し主語と賓語の関係を逆転させるなど文型レベルでの対応が行われる場合がある。
- ・敬語や婉曲表現のレベルでは、中国語は日本語ほど敬語表現が発達していないだけでなく、日本語の「与え」や「受け」の授受表現を用いた請求・命令・禁止表現

に対して、話し手と聞き手の相対的な距離感や上下関係に基づく使い分けがないことから、中国語ではほぼワンパターンでの対応となる。

## 6. まとめ

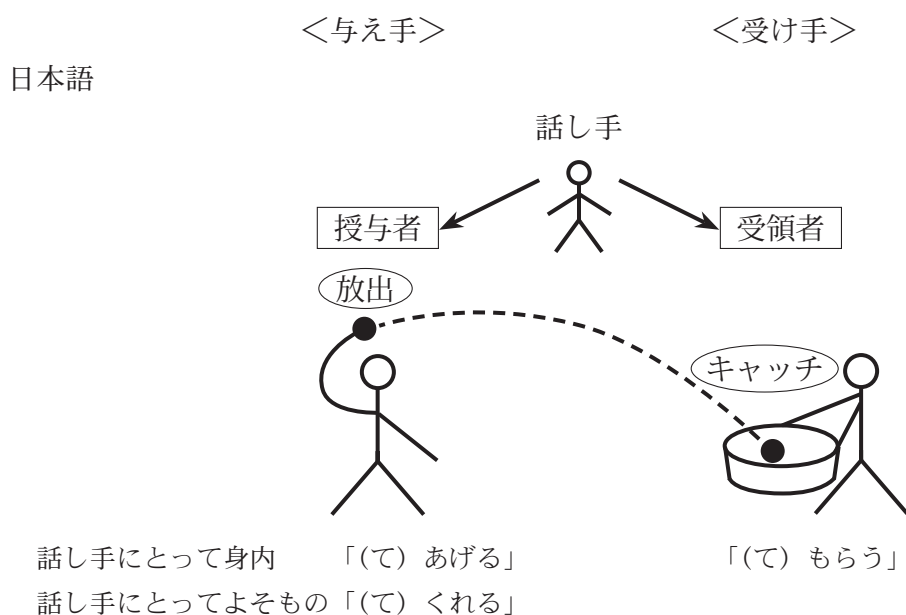
日本語の授受表現を「与え」動詞・補助動詞、「受け」動詞・補助動詞の別に従って中国語との対応関係を整理した。

細かい対応関係は既に述べた通りであるが、このような日本語と中国語の授受表現から見られる対照的な相違点を端的にまとめると、日本語はあくまでも「与え手」と「受け手」が注目の的であり、中国語には動作行為の方向性が求められるということである。別の言い方をすれば、日本語は事物の移動の経過や方向性には興味がなく、「事物の授与者」と「事物の受領者」（「出し」・「受け」）に意識が集中している。図（2）でいえば、動作行為に矢印の軌道がない状態である。（破線-----で表示）一方、中国語では、事物がどう動いたのか移動の方向に興味があり、そのため「起点」と「着点」（「～から」・「～へ・まで」）に意識が集中している。図（2）にも（実践→で表示）示すように、動作行為の方向性が重要であることからその軌道に矢印が付いているような状態である。

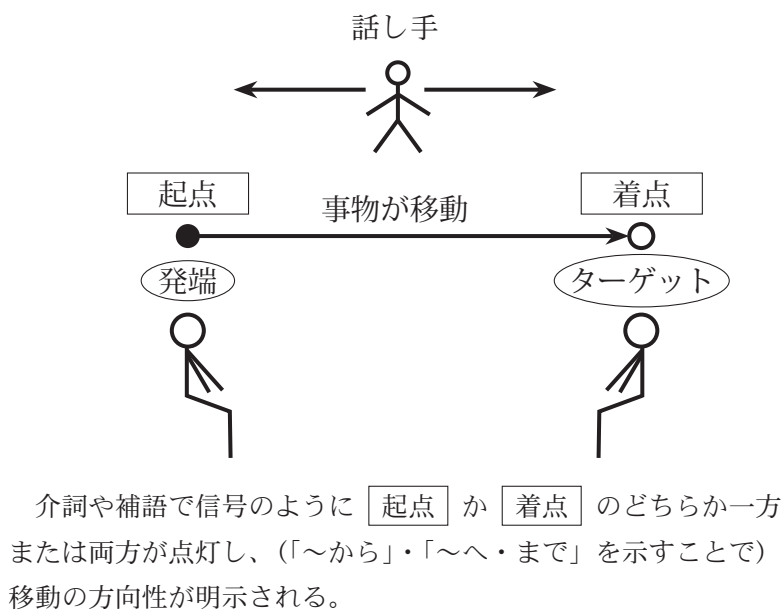
最後に、日本語と中国語の授受表現に関するイメージの相違を図(2)によって示す。



日本語と中国語の授受表現に関するイメージの相違 (図2)



中国語



以上、日本語と中国語の授受表現に関して、対応状況を基に相対的内包と外延について俯瞰することを目的として整理を行ったが、更に原則的なもの以外に細かい問題が存在する。また、今回は、大枠の対応関係を把握することに努め、あくまでも辞書の対訳を中心として分析をすすめたため、用例数も十分とは言えない。今後は、データベースなどを用いて計量的な分析を行う必要がある。

引用文献：

- 愛知大学中日大辞典編纂処編集 (1987) 『中日大辞典』第1版,大修館書店  
 大東文化大学中国語大辞典編纂室編集 (1994) 『中国語大辞典』,角川書店  
 グループジャマシー編著・徐一平ほか訳 (2001) 『中文版日本語文型辞典』,くろしお出版  
 木村英樹 (2012) 『中国語文法の意味とかたち』,白帝社  
 久野暲 (1978) 『談話の文法』,大修館書店  
 劉月華ほか・相原茂監訳・片岡博美ほか共訳 (2000) 『現代中国語文法総覧』,くろしお出版  
 呂叔湘主編・牛島徳治ほか監訳 (2003) 『中国語文法用例辞典』,東方書店  
 益岡隆志 (2012) 「受動文と恩恵文が会おうときー日本語研究から」,『日語学習と研究』  
 第1期,総158号,pp.1-9,中国日語教学研究会  
 奥津敬一郎・徐昌華 (1981) 「『～てもらおう』とそれに対応する中国語表現」,『日本語教育』46号,pp.92-104,日本語教育学会  
 奥津敬一郎 (1983) 「授受表現の対照研究ー日・朝・中・英の比較ー」,『日本語学』4月号,  
 pp.22-30,明治書院  
 小学館・商務印書館主編 (2002) 『中日辞典』第2版,小学館  
 小学館・商務印書館主編 (2002) 『日中辞典』第2版,小学館  
 杉村博文 (2006) 「中国語授与構文のシンタクス」,『大阪外国語大学論集』第35号,pp.66-96,  
 大阪外国語大学  
 杉村泰 (2002) 「中国語の“給人”と日本語の『人に』」,『言葉と文化』第3号,pp.63-78,  
 名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻  
 山岡政紀 (2005) 書評「日本語のベネファクティブー『てやる(てあげる)』『てくれる』  
 『てもらおう』の文法ー」,「日本語の研究」第1巻3号,日本語学会  
 朱徳熙 (1979) “与動詞‘給’相関的句法問題」,『現代漢語語法研究』,pp.151-168,商  
 務印書館

参考文献：

- 橋本良明 (2001) 「授受表現の語用論」,『言語』第30巻5号,pp.46-51,大修館書店  
 廣瀬幸生 (2001) 「授受動詞と人称」,『言語』第30巻5号,pp.64-70,大修館書店  
 蒲谷宏 (2001) 「日本語教育で授受動詞をどう教えるか」,『言語』第30巻5号,pp.52-53,  
 大修館書店  
 影山太郎編 (2013) 『複合動詞研究の最先端ー謎の解明に向けて』,ひつじ書房  
 神尾昭雄 (1990) 『情報のなわ張り理論』,大修館書店  
 神谷智幸 (2012) 「現代中国語における“給V”構造の意味と機能」,『言語情報科学』  
 10,pp.1-17,東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻  
 前田富祺 (2001) 「『あげる』『くれる』成立の謎ー『やる』『くださる』などとのかわ  
 りで」,『言語』第30巻5号,pp.34-40,大修館書店  
 松浦とも子 (2003) 「『使役型てもらおう』構文の日中対象研究ー中国語母語話者の授受表現

- における母語の影響」,『早稲田大学日本語教育研究』3,pp.111-124,早稲田大学
- 益岡隆志 (2001) 「日本語における授受動詞と恩恵性」,『言語』第30巻5号,pp.26-32
- 益岡隆志・野田尚史・沼田善子編 (2001) 『日本語の主題と取り立て』,くろしお出版
- 守屋三千代 (2002) 「日本語の授受動詞と受益性～対照的な観点から」,『日本語日本文学』第12号,pp.1-2,創価大学
- 三宅知宏 (1996) 「日本語の受益構文について」,『国語学』186集,pp.104-91,日本語学学会
- 仁田義雄・益岡隆志編 (2001) 『日本語のモダリティ』,くろしお出版
- 大江三郎 (1976) 『日英語の比較研究－主観性をめぐって』,南雲堂
- 任栄哲 (2001) 「人と人を繋ぐもの－なぜ日本語に授受動詞が多いのか」,『言語』第30巻5号,pp.42-45,大修館書店
- 澤田淳 (2005) 「日本語の受益構文と「主体化」－「～てくれる」構文と「～てやる」構文の比較－」『日本認知言語学会論文集』5,pp.441-450,日本認知言語学会
- 澤田淳 (2006) 「ヴォイスの観点から見た日本語の授受構文」上田功・野田尚史(編)『言外と言内の交流分野』,pp.253-263,大学書林
- 澤田淳 (2014) 「日本語の授与動詞構文の構文パターンの類型化－他言語との比較対象と合わせて－」,『言語研究』第145号, pp.27-60,日本言語学会
- 城田俊 (1996) 「話場応接態(いわゆる『やり・もらい』)－『外』主語と『内』主語－」,『国語学』186集,pp.1-14,日本語学学会
- 滝浦真人 (2001) 「敬語の論理と授受の論理－『聞き手中心性』と『話し手中心性』を軸として」,『言語』第30巻5号,pp.54-61,大修館書店
- 豊田豊子 (1974) 「補助動詞『やる・くれる・もらう』について」,『日本語学校論集』,pp.77-96,東京外国語大学外国語学部附属日本語学校
- 山橋幸子 (1999) 「『てくれる』の意味機能－『てあげる』との対比において－」,『日本語教育』103号,pp.21-30,日本語教育学会
- 山田敏弘 (2004) 『日本語のベネファクティブー「てやる」「てくれる」「てもらう」の文法ー」,明治書院
- 山田敏弘 (2011) 「類型論的に見た日本語の『やりもらい』表現」,『日本語学』,pp.4-14,明治書院

<sup>1</sup>以下、本稿でいう中国語とは現代漢語における普通話を指す。

<sup>2</sup>以下、授受動詞と称する。

<sup>3</sup>山田敏弘著『日本語のベネファクティブー「てやる」「てくれる」「てもらう」の文法ー』の書評において、山岡(2005,p.201)は、ベネファクティブの定義について次のように

解説している。「ベネファクティブとは、副題にあるとおり、『てやる』『てくれる』『てもらう』を用いる構文のことで、日本語文法論では、授受動詞、受給動詞、やりもらい動詞などの名称で議論されてきた『やる』『くれる』『もらう』の、補助動詞用法に考察対象を限定したものである。本動詞用法では、『与える』『よこす』『受け取る』などとともに、授受動詞という範疇に属する語彙として位置づけられるが、補助動詞用法の場合は、『与える』などの他の授受動詞には見られず、しかも他の動詞文に自由に下接して文法化し、相互に対立関係を生じている。つまり、これら三種の補助動詞の構文は一つの閉じた文法体系をなしていると捉えることができる。その意味で授受動詞等の語彙範疇の名称ではなく、文法体系の名称としてベネファクティブを用いている。」そもそもは、山岡（同,p.206）にあるように「benefactiveは、もともと格文法で意味格の名称として用いられていた（Fillmore（1971）など）が、日本語文法では授受（受益、やりもらい）構文の英訳にこれを用いてbenefactive constructionとするようになった。（益岡（1981）など）。著者は独自にこれをカタカナ表記とし、constructionの訳語に相当する『構文』を省略している。」言い方である。

- <sup>4</sup> 受け手と話し手、どちらの立場に立って発言するかによって使用するべき語が決定づけられることから、日本語の授受表現ではしばしば視点という表現が用いられる。（久野1978等）中国語では、方向補語の“来・去”において、動作が話し手の方向に向かうか、聞き手の方向に向かうかによって使い分けがなされており、その立ち位置、つまり基準となるものを『現代中国語文法総覧』では「立脚点」と呼んでいる。視点は、この立ち位置を示すものであるが、注視点との区別を明晰にすると同時に、本稿では日中対照の観点からそれぞれの用法を分析するため、以下、引用箇所を除き、用語を「立脚点」に統一する。
- <sup>5</sup> 中国語では、このほかにも“租”「賃貸する」、「賃借する」のような両方の意味を持つ語があり、数は多くないが“借”に限った現象ではない。
- <sup>6</sup> 『中日大辞典』“给”A) gěi②(a)語釈（愛知大学、大修館書店に拠る。）
- <sup>7</sup> 介詞は、名詞（句）や代詞を目的語として伴い、介詞句を構成し、場所・方向・時間・対象・目的などの意味を表す虚詞（文法的機能語）である。（『中日辞典』第2版“介詞”に拠る。）
- <sup>8</sup> 引用箇所以外に、例文の後に出典が記されていない場合は著者の作例である。なお、引用箇所の例文の翻訳が（ ）で括られている場合は、筆者による翻訳である。
- <sup>9</sup> 各所において展開される論の中心となっている日本語に対応する中国語に \_\_\_\_ を付す。
- <sup>10</sup> 例として「太郎ガ次郎ヲ殺シタ」と「次郎ガ太郎ニ殺サレタ」言っても「太郎」と「次郎」の間に起こった出来事はただ一つであり、話し手がどちらの側に立つかによって、能動文なり受身文なりが決まるとしている。ほかに「巨人ガ中日に負ケタ」と「中日ガ巨人ニ勝ッタ」の例も挙げられている。
- <sup>11</sup> 「巡查ガ泥棒ヲ捕マエタ」と「泥棒ガ巡查ニ捕マッタ」の例を挙げる。
- <sup>12</sup> 施事は動作主、受事は受け手に同じ。
- <sup>13</sup> 『中日辞典』（第2版）小学館、『日中辞典』（第2版）小学館、『中日大辞典』大修館書店、『日本語文例辞典』（中文版）くろしお出版を使用した。それぞれ例文の後ろに(中)、(日)、

(中大)、(文) と略称を用い出処を示した。

<sup>14</sup>今回収集した例文では、本動詞の「やる」と「あげる」の待遇の違いは中国語の訳文に反映されないことから、ここでの例文の日本語は「やる」を用いている。

<sup>15</sup>この項目の例文は、いずれも主語(我)が省略されている。( )内の主語は便宜上筆者が文意や構造に影響がないよう配慮して補足したものである。

<sup>16</sup>二重賓語を取る構文中に間接賓語・直接賓語の一方しか現れていない場合は、必要に応じて( )を付してその賓語の種類を表記した。

<sup>17</sup>木村(2012,pp.224 - 225)では「授与目標マーカ―」について、「物や情報の受け取り手を必須の関与者として成立する種々の行為を意味する一連の動詞(句)と共起して、それらの行為が目指す相手、すなわち<モノ>の受け取り手を導く機能を担う。この種の“給”は動詞の“給”が直後の名詞(句)に対してもつ『<被授与者>役割の付与』という機能を、若干の拡張を伴いつつ受け継いでいる。ここではこの種の“給”を仮に『授与目標マーカ―』と呼ぶ。」とし、また、授与されるものはものや情報以外に「出来事」でも“給”の介詞構文を用いることは可能であるとして、更に「『編む』や『買う』に代表される作成行為や獲得行為はそれ自体は必ずしも第3の関与者としての<被授与者>の存在の必須とするものではないが、“給”はそれらの行為を意味する動詞と共起して、作成物や獲得物を与える相手、すなわち授与目標を導くことができる。」とする。「受益者マーカ―」については、(同,pp.228)に“給”には具体的なモノの受け取り手のほかに、<恩恵>や<利益>の受け手を導く用法もある。(中略)動作行為がもたらす恩恵もしくは利益に与る対象である。すなわち<受益者>である。このような動作行為にとっての受益者をマークする“給”を『受益者マーカ―』と呼ぶ。動作行為がもたらす抽象的な影響の受け手を導く受益マーカ―の用法は、動作行為の直接関与物である具体物<モノ>の受け手を導く授与目標マーカ―からの拡張であると考えられる。(中略)受益者マーカ―の共起する動詞は、一般に<奉仕><服務>または<労役>の意味を読み込むことの容易な動詞に限られる。」と説明される。

<sup>18</sup>直接賓語を含む動賓構造の離合動詞である。(『中日辞典』第2版)

<sup>19</sup>以下、断わりがない場合は、単語の直後に置かれた( )内の日本語の語釈については、『中日辞典』(第2版)の各語項目より該当箇所を抜粋した。

<sup>20</sup>この( )内の日本語の語釈については、『中国語文法用例辞典』の各項目より該当箇所を抜粋した。

<sup>21</sup>施事は表示されていないことから、( )内に入れる。

<sup>22</sup>木村(2012,p.226)に「介助を伴う使役的状况」との表現がある。この“給”の用法について、「このような直後の名詞(句)にモノの受け取り手としての意味役割を付与しながら、しかし主要動詞とは認め難いもう一つの用法として、介助を伴う使役的状况を指摘する。(中略)この種の構文は、主語に立つ人物が、文末の動詞句が表す動作行為の主体ではないという点に特徴がある。」と解説する。

<sup>23</sup>ほかに動詞1が愛憎・好悪を表すものや動詞1が“有”“没有”であるもの(同様に「出現



や消失」を表す“生”“来”“死”などが動詞1に来ることもある)などがある。(『日中辞典』第2版に拠る。)

<sup>24</sup>例えば、“辞去秘书职务/秘書”「秘書の職を辞める」(中)のように、補語として方向補語“去”(～をさる)を用いたのでは、「～てやる」の意味は表現できない。

<sup>25</sup>“把”構文は、介詞“把”(～を・～に)の後ろに特定の賓語を伴い、動詞句の前に位置する構造をなす。処置義、致使義の機能義があり、特定の賓語に対する動作行為によって生じた顛末に焦点が当たる。

<sup>26</sup>処置義：“把”構文の意味は大きく処置義と致使義に分けられる。処置義とは、「ある動作行為を起こすことで、特定の対象に対してあることの顛末が引き起こされる」ことを表す。その顛末は好まし事とそうでない事の両方があり得るが、動作対象に焦点が当たり、その処置義が強調される構文であることから、日本語の授受補助動詞が対象への恩恵の授受を示す点において、意味上の対応性を見出すことが出来る。

<sup>27</sup>『中国語大辞典』“去”語釈⑦に拠る。

<sup>28</sup>杉村(2002,p.73)では、『仕事』、『手術』、『ご飯』、『名前』が受け手に具体的な形として直接授与されるものは『～のために、～に』の両方を用いることが出来るが(抜粋例：a.我给他找工作。b.\*我找工作给他。c.私は彼のために／に仕事を探す。)、『手伝い』、『掃除』、『洗濯』、『墓参り』は行為の結果生じる影響(恩恵)として付与されるものであるため、『～のために』は言えるが、『～に』とは言えない。(抜粋例：a.我给他帮忙。b.\*我帮忙给他。c.私は彼のために／\*に手伝う。)」としている。例(75)は後者に当る。

<sup>29</sup> [5.1.5.] 参照。

<sup>30</sup>原文は脚踏车だが、普通話の語彙に改めた。(85)、(86)に同じ。

<sup>31</sup>『～させる』を使うと、いかにも尊大で強制的な感じを与える、謙讓表現の発達している日本語としては、主文の主語が身内であれば、「～させる」の使用は避けた方がいい場合も多い。そこで『～させる』による使役表現をやわらげる謙讓的表現として『～てもらう』が使われることになったのだろう。」とその派生義が生じた理由としている。

<sup>32</sup>『広辞苑』の語釈を引用している。

<sup>33</sup>このほか、奥津(1981,pp.99-102)において“请”と同等の語として“要”、使役動詞“让”に相当する語として“叫”も、「～てもらう」に相当するA類兼語式動詞として例を挙げている。「“要”より“请”の方が語気が大分柔らかくなり、より丁寧に要求を表現する。“叫”は“让”に比べてより固い命令的な語気をもつ。そこで尊大な語感を与える『～させる』を“叫”の訳語とすべきだとも考えられるが、实例は必ずしもそうではなく、『～てもらう』と訳されているものもある。」(抜粋)としている。そして、(同,p.103)では、「この語気上の違いも、正確に日本語に反映させることはむずかしいだろう。」と指摘する。本稿では、単文による検証を行っており、コンテキストによる判断が難しいため、この点の語気の相違については、言及に至っていない。

<sup>34</sup>『中国語文法用例辞典』“让”動詞第4項目語釈。

<sup>35</sup>『中国語文法用例辞典』“让”動詞第1項目語釈。

<sup>36</sup>『中国語文法用例辞典』“让”動詞第5項目語釈。

<sup>37</sup>A類の動詞1は常に使役の意味を含む他動詞であり、動詞2は動詞1の結果または目的を表す。これは呂(1979)における兼語式の三分類A・B・Cに基づいたものである。  
([3.1.1.1.]参照)このA類に該当する動詞として、ほかに“要”“叫”“派”“动员”“拖”“找”“喊”などの例が挙げられている。

<sup>38</sup>『日中辞典』第2版の「もらう」には、「喜んでもらえてうれしい。您能喜欢我很高兴。」という用例がある。しかし、この中日対訳からは「あなたに喜んでもらえて」と「あなたが喜んでくれて」との区別がはっきりしないことから、ここでは例文を書き分けて記した。

<sup>39</sup>奥津(1983,p.26)の表(13)による。

<sup>40</sup>中国語の一般的な平叙文では、述語の前に置かれた名詞成分を主語、後ろに置かれた名詞成分を賓語とみなす。

<sup>41</sup>日本語の日常会話が出来る程度の基礎文法の知識とその用法を習得していることを最低条件とする。

<sup>42</sup>話し手が、山田が身内、鈴木がよそものという意識を持っていれば、可能な表現である。

<sup>43</sup>“才”が入る必要があるのは、「～てもらった」という恩恵を享受する人物(=話し手)が何らかの働きかけをし、その結果、やっとのことで恩恵を享受した(=「～てもらった」という意味合いを表すためである。

<sup>44</sup>実際の日常会話では使用されるが、規範的な用法とは言えないことから△を付す。

<sup>45</sup>“妈妈买了糖果给弟弟。”とも表現できる。

<sup>46</sup>しかし、“给你”が必ず授与性が強いかというと、そうとも言えない場合もある。例えば、次の“给你”は“跟你”に同じく動作対象を示すのみである。

我给你说：～。(ねえ。話があります。)

我跟你说：～。(ねえ。話があります。)

我为了你好，才跟你说：～。(あなたのために言うのだが。)

また、“为了”も必ずしも日本語の授受表現に対応するとは限らない。

我这样做都是为了你。　　私がこうするのはすべて君のためなのだ。

なお、本稿は平成26年度日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金、基盤研究(C)、「近現代の漢語動詞の演変分化による機能構文の構造発展と機能義変容に関する通時的的研究」、研究代表者：藤田益子、課題番号：23520499)の成果の一部である。